


No. 07

タイ王国青少年福祉センター建設計画 基本設計報告書

昭和54年9月

国際協力事業団

開業

79-86

JICA LIBRARY



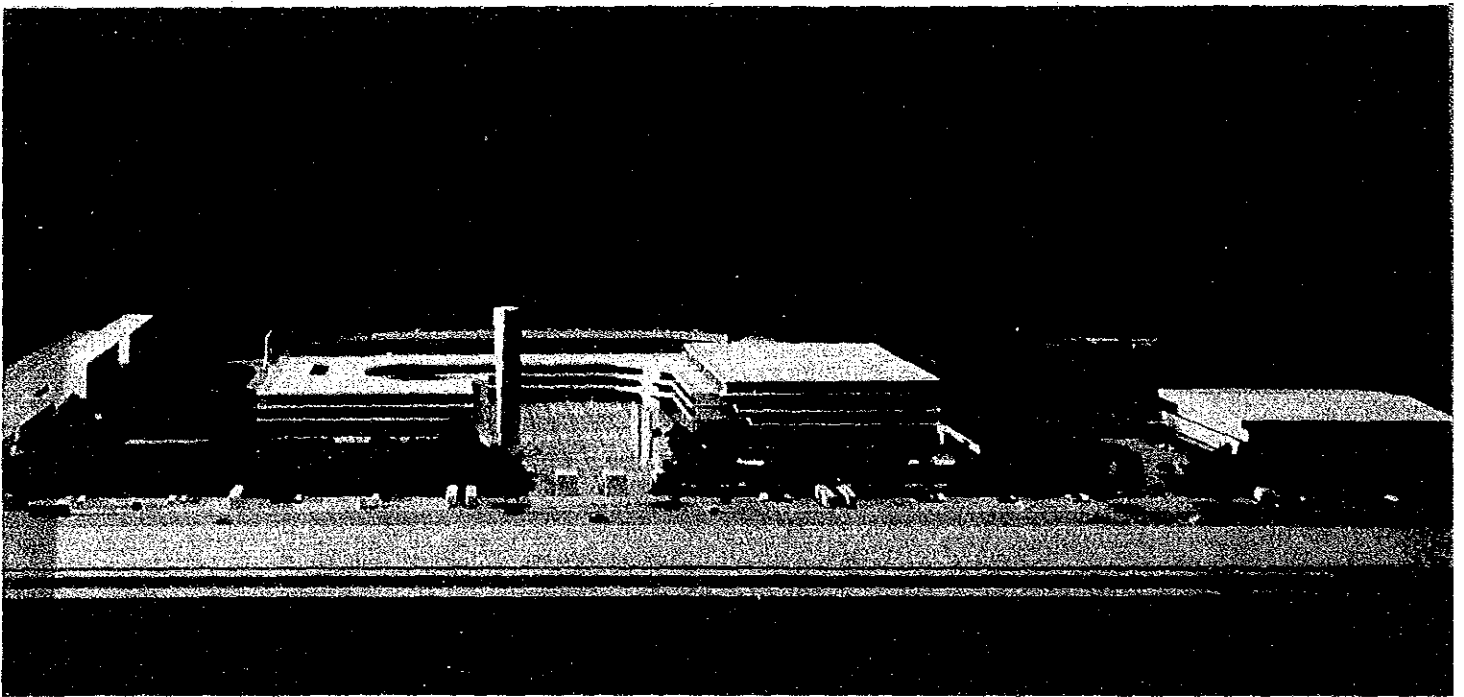
1049688[9]

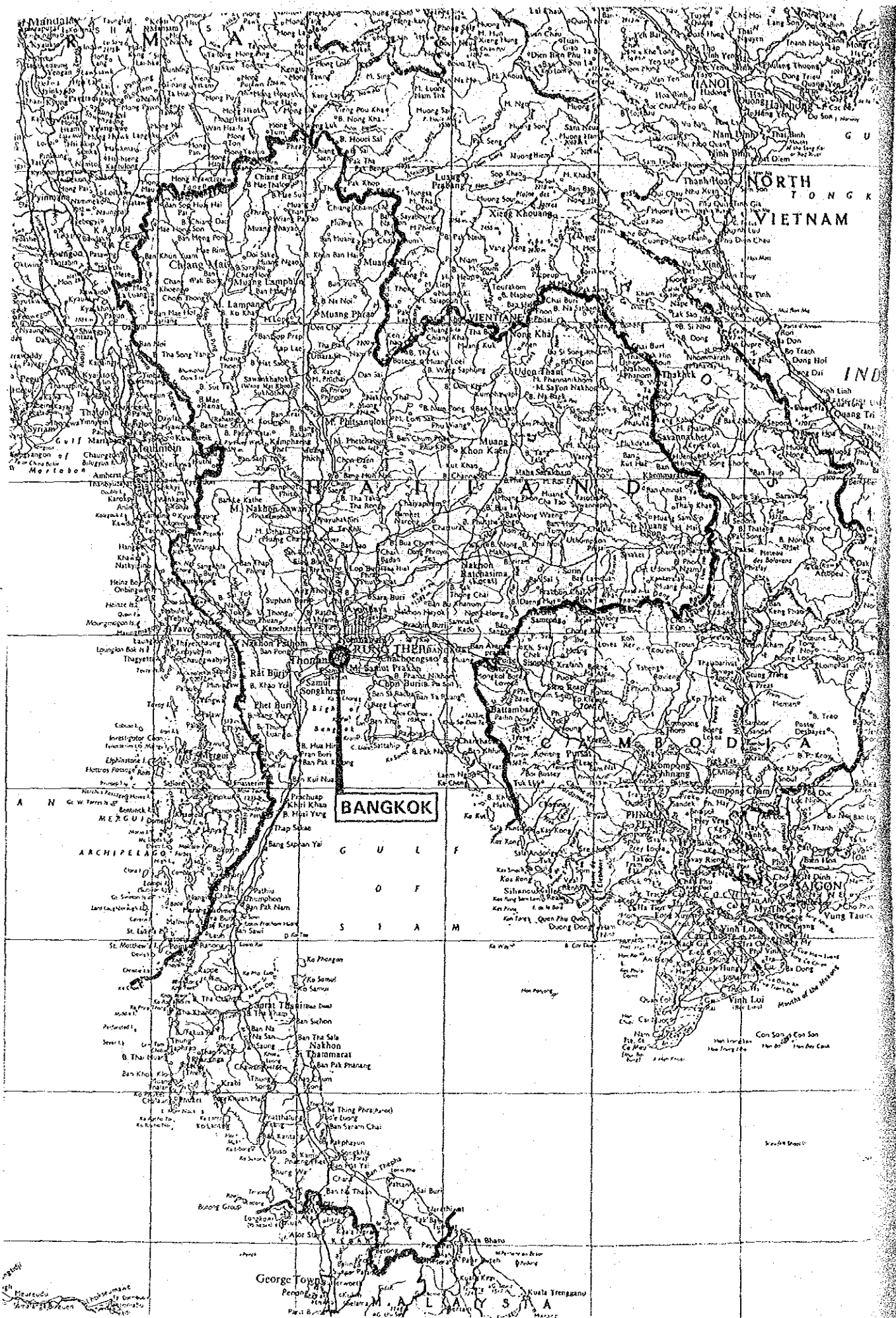
タイ王国青少年福祉センター建設計画

基本設計報告書

国際協力事業団	
納入 月日 '84. 4. 21	122
登録No. 03790	62.5
	SDS

(株)久米建築事務所は、国際協力事業団の委託により、本プロジェクトの基本設計調査団に参加し、本報告書の作成を担当した。





BANGKOK

MAP OF THAILAND

序 文

日本国政府は、タイ国政府の要請に基づき、同国の青少年福祉センター建設計画に協力することを決定し、国際協力事業団が基本設計調査を実施した。

本センターの目的は、サークル活動、文化活動、スポーツを通じて、首都バンコクにおける青少年の健全なる精神的・肉体的な向上を助け、青少年の社会的連帯感を深めることにある。

現地調査は、1979年6月10日より6月24日まで実施され、その調査結果に基づくドラフト基本設計について1979年8月13日より8月19日まで、タイ王国政府に対して内容説明を行ない、同政府の了解を得た上で今般報告書完成の運びとなった次第である。

ここに今回の調査に対し協力を寄せられた、タイ王国政府関係者、並びに在タイ日本人関係者各位に対して深甚なる謝意を表すものである。

1979年9月

国際協力事業団
総裁 法眼晋作

目 次

序 文

計画概要

計画の意義

第 1 章 青少年福祉センター

- 1-1 背景..... 2
- 1-2 目的..... 3
- 1-3 建設地..... 3

第 2 章 基本設計

- 2-1 基本方針..... 4
- 2-2 配置計画..... 5
- 2-3 施設計画..... 7
- 2-4 施設規模..... 9
- 2-5 エレメント計画..... 10
- 2-6 材料計画..... 11
- 2-7 構造計画..... 12
- 2-8 空気調和換気設備計画..... 14
- 2-9 給排水衛生設備計画..... 15
- 2-10 電気設備計画..... 16

第 3 章 基本設計計画図..... 18

第 4 章 建設計画

- 4-1 建設工事範囲及び工事分界点..... 43
- 4-2 建設工期..... 45
- 4-3 建設費概算予算..... 46

資料編

第5章 調査団の派遣

5-1	調査団の派遣目的	51
5-2	調査関係者	52
5-3	調査団の日程	55
5-4	討議の経緯	58
5-5	参考資料	64

第6章 建設基盤条件調査

6-1	敷地調査	85
6-2	関連施設調査	89
6-3	気候条件・地理的条件	91
6-4	建築関連法規及び設計規準	94
6-5	建設市場調査	98
6-6	参考資料	108

計画概要

1) 建設地

本計画の建設地は、Bangkok市内のDin Daeng地区に位置し、広さ約12.0haの平坦地である。敷地西面はRong Pui道路に接しており、近くを高速道路が走っている。周辺には、中高層住居、学校等がある。

2) 本センターの概要

本センターは、中心施設である本館（体育館、オーディトリウム、スチューデント・アクティビティ、図書室、等を複合した施設）、メインスタジアム、水泳プール、中央広場、野外劇場（以上は日本側供与施設）、各種スポーツエリア、職員・従業員用住居、及びタイ側にて補修整備される予定の既存体育館、ユースホステルより構成される。

3) 施設内容

本館は、敷地中央に位置し、経済性及び多目的利用を考慮して体育館、スチューデント・アクティビティ、図書室、オーディトリウム、展示室、カフェテリア、管理事務室、及びメインスタジアム観覧席を複合した構成をもち、鉄筋コンクリート造3階建て計画される。

メインスタジアムは、400mトラック8コース、サッカーフィールド、バックスタンドから成り、水泳プールは、50m9コースのプール、スタンドより構成される。

メインスタジアムは約7,000人、水泳プールは約1,000人、体育館は約1,500人（集会時は約4,000人）オーディトリウムは約200人それぞれ収容可能である。

一般諸室は自然換気とするが、体育館、オーディトリウム等は集会時は空調される。又、集会用の特殊照明、音響設備が設けられる。その他、一般勤労者の夜間使用のためにメインスタジアム、水泳プールに夜間照明が設けられる。

4) 建設工期

建設工事に要する期間は約22ヶ月である。

計画の意義

基本設計調査団の滞在中、タイ国首相自ら建設予定地、及び施設の配置計画等について直接に意見を述べたり、Bangkok市当局も積極的にこれに対応する等、本計画に対するタイ国上層部の関心が非常に高いのはもとより、新聞、テレビが機会のあるごとに本計画を大きく取り上げ、その内容、及びそれが日本国政府の協力によって建設されることを詳しく報道する等、本計画はタイ国民にとっても、とりわけ関心の的になっている。

米たるべき社会を担う青少年層の福祉、智育向上のための施設を建設しようとする本計画の趣旨は、タイ国の現状を考えるに非常に当を得たものであり、その恩恵が汎くタイ国民に及ぶこと、加えて本計画がChakri王朝 200 周年というタイでは最大の行事に焦点を合わせている事等を考えれば、本件に対する無償資金協力事業が日本のタイに対する対外援助活動の PR に絶大なる効果を与えると共に、両国友好関係を大いに発展させるものであると断言することができる。

第1章 青少年福祉センター

1-1 背景

近年、タイ国においては、社会構造の変化が激しく、首都 Bangkok 市を中心として人口の都市集中化が進んでおり、人口の急増、特に若年層の増加（Bangkok 市人口500万人、内約60%が25才以下）は、貧困、失業、家庭不和、青少年犯罪を誘発し、大きな社会問題化している。

こうした問題の解決のためには、青少年をはじめとする市民が勉学、勤務の余暇を利用して、ソーシャル・パフォーマンス、シンポジウム、ミーティング、講習会、スポーツ等を通じ、相互協調の精神を養うと共に、簡単な技能の修得等を含め、文化活動を通じ人間性の向上を計ることが不可欠である。

加えてタイ国では、初等教育を無償で提供し、その教育の力を国の開発政策に関連づけることが教育施策の基本的な課題とされており、特に学校外教育では、学校教育を十分受けられなかった青少年層に対する識字教育、職業訓練が大きな課題となっている。

しかるに、Bangkok 市内には富裕層を対象とした民間の集会場、体育クラブ等は存在するものの、中産階級以下を対象とした施設は極めて不足しているのが現況である。

このためタイ国政府は、民生安定の点からも、青少年の生活意識の改革の点からも、市民と共に青少年が気軽に利用できる青少年福祉施設の拡充を進め、その拠点となる施設の整備を切望してきた。

以上の背景から、本青少年福祉センター建設計画の構想がタイ側にてなされ、要望書が作成された。

タイ国では、公共施設や各家庭の主たる室には、必ず国王、王妃の写真が飾られていることから推察される様に、国民の王室に対する敬愛の念は、ことのほか強く、国王に対し、絶大な尊敬と信頼とを寄せている。1982年は、Chakri 王朝200周年にあたっており、本計画は、その記念事業の一環を担うものとして立案されている事もあって、タイ国民の大きな期待と関心が寄せられている。

1—2 目的

A. 目的

本センターの建設計画は、青少年を中心とする市民が、余暇を利用していつでも気軽に集まり、サークル活動、文化活動、スポーツ等を通じ、相互の連帯の強化、人格の向上に勉めることができる様にすることを目的としており、特に青少年に対しては、本センターにおける活動を通じ、身心両面の成長が期待されている。

又、現在ある青少年センターの施設の不備等を補う意味も含め、本センターは、これらの中心機関として位置づけられている。Bangkok市の将来計画としては、Din Daeng Center, Bang Mod Center, Nong Bon Centerの3施設を福祉スポーツ施設として計画し、他の小施設への器具の貸出し、技術指導を行ないたいという構想がある。

B. 管理・運営

本計画の推進を計り、本センターの完成後直接管理運営にあたる予定のB. M. A. (Bangkok Metropolitan Administration) は、既に本センター建設の為に本年度予算 2,500万Bを確保し、更に、建設計画の進展に応じて予算計上し、タイ側としての本プロジェクトの進捗を積極的に講ずる体勢を示している。

B. M. A.の本センター管理運営組織は別図(参考資料-P67)の如くである。又、B. M. A.は、運営費として人件費等の管理費100万Bを含めて年間620万Bを予定している。この運営費は、B. M. A.の予算に鑑み最大限努力した数字であり、本センターの利用者からの収入はほとんど見込まれない事等から、できるだけ維持運営経費のかからない施設を計画する必要がある。

1—3 建設地

本センターの計画敷地は、Bangkok市北東部、Phaya Thai区 Din Daengに位置している。又、敷地の西方約100mに、Bangkok市中央部からDon Muang空港を経てSaraburiまで延びる高速幹線道路(現在拡幅中、又、高架環状道路との接続ランプを建設中)が走っており、当敷地の交通の便は、極めて良い。

第2章 基本設計

2-1 基本方針

本センターには、400mトラック及びフィールドを有するメインスタジアム、体育館、水泳プール等、競技会の開催も可能な施設、球技、柔道、ボクシング等の練習施設、オーディトリウム、図書室、及び教養、簡単な職業指導等を行なう多目的室、その他ユースホステル、職員及作業員用宿舎等の施設が計画される。

これらの施設規模に対して、敷地がそれ程充分でないこと、敷地内に一部ユースホステル、体育館が現存することから、基本設計をまとめるにあたって、下記の点に留意する。

- 1) 施設の有効的・多目的利用
- 2) 限られた敷地内における各施設の集約的な計画
- 3) 建設コスト及び運営コストの低減化
- 4) 既存施設の利用と新施設との関連

施設の多目的利用を計ることは、本センターの種々の企画に対して、各施設の有効かつ柔軟な利用を可能にするためである。各施設をその機能に従って集約化することは、周囲にオープンスペースとゆとりを確保すると同時に、施設内の動線及び設備ラインの短縮により建設コストを低減し、かつ運営管理を容易にするものである。又、各施設の集約化にあたっては、利用者の動線及びサービスの動線が交錯しない様に留意するとともに、競技会の開催時に他の施設の平常の利用を互いに妨げない様、機能分離を計る。

2-2 配置計画

基本設計に対する方針に従い、本センターの中心施設として本館を計画し、ステージ付体育館、メインスタジアムの観覧席、スチューデント・アクティビティ諸室、オーディトリウム、図書室、管理事務室等をその中に一体化する。

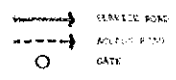
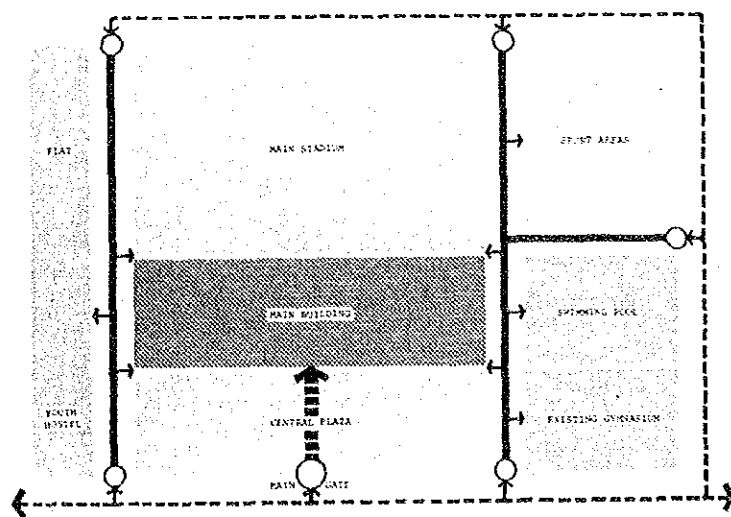
本館は、その東側に面するメインスタジアムと共に敷地中央部に配置し、周辺には他の施設との間にゆとりを持たせるべく十分なオープンスペースを設ける。本館西側前面のオープンスペースは、本記念事業の記念中央広場とし、広く一般市民の利用に供する。

敷地北西側に既存するユースホステル延長上に増築し、ユースホステル、職員用住居を配置計画し、合わせて宿泊、居住ゾーンとする。又、メインスタジアムとの間にオープンスペースを設け、環境の確保と機能分離を計る。

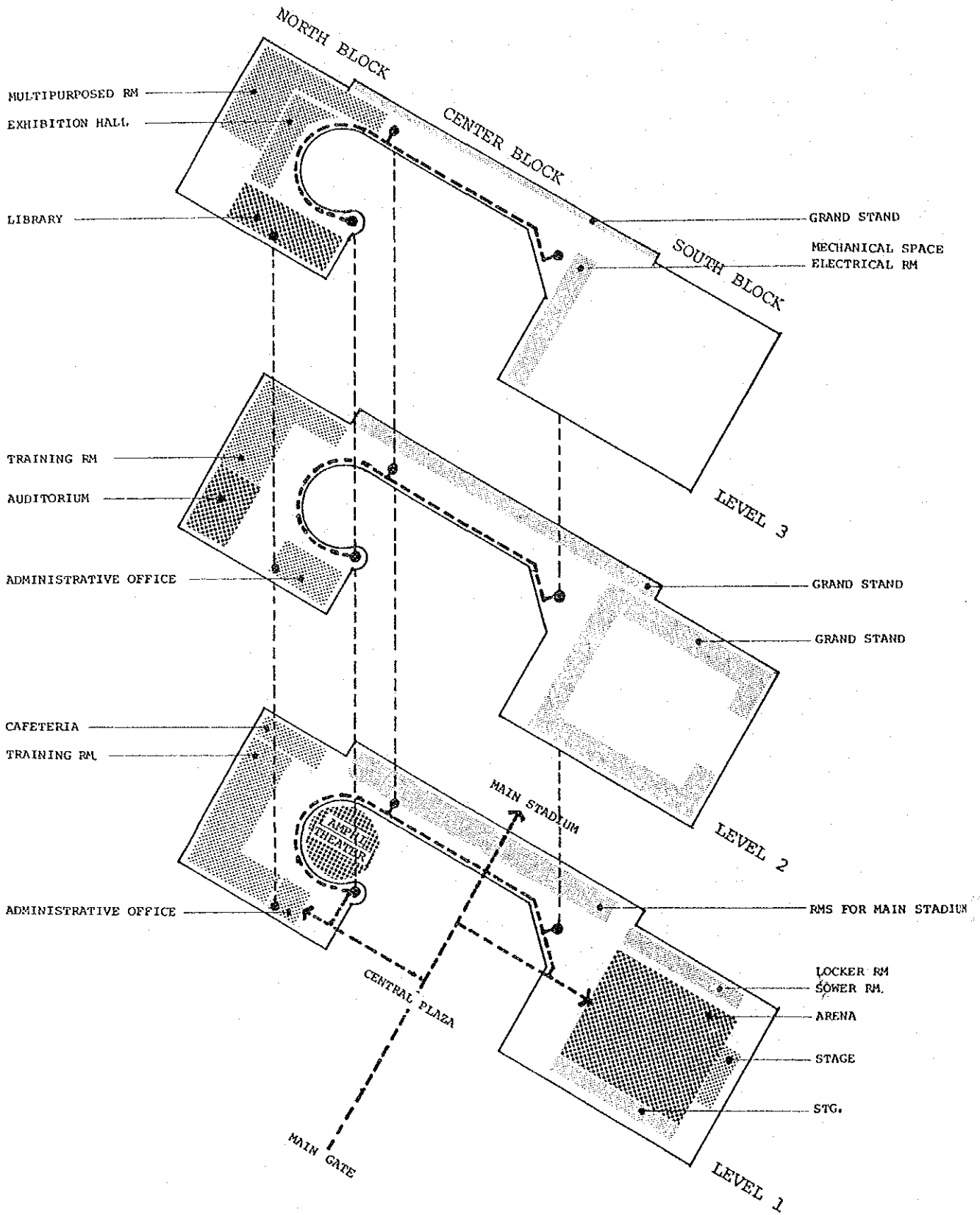
既存体育館と、本館に新設される体育館に近接して水泳プールを設け、敷地南東部分に各種コートを設置し、敷地南側を全体として水泳・球技スポーツのゾーンとする。

本センターの正面メインゲートを敷地前面 Rong Pui 道路に面して設け、本館への主動線とする。

ユースホステル、職員用住居群、及び水泳プール、既存体育館への各サブゲートを前面道路に面して設ける他、敷地の東側及び南側周辺道路にサービスを兼ねたサブゲートを併設し、人車動線の交差を避け、短時間に出入りの集中する本センター利用時に対処し、円滑な動線を確保する。



LINKAGE DIAGRAM OF FACILITIES



LINKAGE DIAGRAM OF MAIN BUILDING

2-3 施設計画

A. 本館

鉄筋コンクリート造3階建て計画する。全体を北側、中央、南側の3ブロックに分け、各ブロックの境界部に階段、便所等の共用施設を配する。又、中央広場を開んでサーキュレーションスペースを設け、わかりやすさと、各ブロック間動線の円滑化を計る。

本館は下記の施設で、構成されている。

南側ブロック……体育館

中央ブロック……メインスタジアム観覧席

北側ブロック……スチューデント・アクティビティ、図書室、
展示場、カフェテリア、オーディトリウム、
管理事務室

- 1) 体育館……………アリーナ (バスケットコート2面)
ステージ、ロッカールーム、器具庫、調整室
観覧席 (約1,500人収容。ロイヤルボックス)
(集会時、約4,000人収容)
- 2) スチューデント・アクティビティ
……………トレーニング室 (柔道、ボクシング、重量上げ、
卓球、体操、体力測定・訓練の6室)
多目的室 (調理、園芸、工芸、絵画、舞踏、音楽、
木工、左官、電気、農業の10室)
- 3) 図書室……………蔵書数約15,000冊
- 4) 展示場
- 5) カフェテリア……ダイニングルーム (約100人収容可能)、厨房、
売店
- 6) オーディトリウム
……………客席 (約200人収容)、ステージ、調整室、リハー
サル室
- 7) 管理事務室
- 8) メインスタジアム観覧席
……………観覧席 (2階約1,600席、3階約750席、合計
約2,350席)、ロイヤルボックス、調整室

B. メインスタジアム

……………400mトラック8コース、サッカー競技場（105m
×68.5m）バックスタンド（約4,650人収容）

C. 水泳プール……………50mプール9コース、観覧席（約1,000人収容）

D. 中央広場……………広場、メインゲート、旗竿、シンボルタワー

E. 野外劇場……………客席、ステージ

2-4 施設規模

各施設の計画規模は概ね下記の如くであるが、実施設計に際して、若干の変動が予想される。

施設名	面積(m ²)
A. 本館	14,200 (建物部分面積)
● 体育館	
● スチューデント・アクティビティ	
● 図書室	
● 展示場	
● カフェテリア	
● オーディトリウム	
● 管理事務室	
● メインスタジアム観覧席	
B. メインスタジアム	20,600
●トラック・フィールド	
●バックスタンド	
C. 水泳プール	3,300
D. 中央広場	5,700
E. 野外劇場	740

2-5 エレメント計画

建築エレメントの計画では、地域の気象条件が大きな要素となる。高温多湿なこの地方の建築計画において、日射、通風、降雨が建物に与える影響は大きく、その適切な処理が重要である。

1) 屋根

屋根は日射による影響を大きく受ける部位であり、多雨に耐える防水と、室内への輻射熱を防ぐために、屋根面と室内との間に有効な断熱層を設ける必要がある。

2) 外壁

外壁も日射による影響が大きい。庇やルーバーを設ける等により、日射を避ける工夫が必要である。タイ国では年間を通して季節風による通風が得られる。自然換気計画上、これを考慮して大きな開口部を設け、風の通り易い構造とし、特定用途の室を除き冷房を設けないこととする。

3) 床レベル

床レベルは、雨期における集中的な降雨による冠水のない様に、充分高い位置に設定したい。

2-6 材料計画

工費の低廉化と、メンテナンスの簡易さを考慮して、需給上問題ないかぎり現地材料を使用する方針とする。

A. 構造材

主要構造はRC造、壁体はコンクリートブロック造を主とする。体育館の屋根架構は鉄骨造とする。

B. 外部仕上材

- 1) 屋根……………樹脂防水、長尺焼付塗装亜鉛鍍鉄板葺（断熱材裏打）
- 2) 外壁……………砕石洗い出し
- 3) 建具……………アルミ製、鋼製、一部木製
- 4) 中央広場………コンクリート舗装ブロック（一部研出し、芝生目地）
- 5) トラック………アンソーカー又は全天候型弾性舗装材
フィールド…芝生

C. 内部仕上材

- 1) 床 (a)一般事務室、教室……………ビニールタイル
(b)廊下、ロビー等……………テラゾ研出し
(c)オーディトリウム、図書室………カーペット
(d)体育館、トレーニング室………ポリウレタン系床材
- 2) 壁……………モルタル下地ペンキ仕上
吸音材（オーディトリウム、視聴覚室）
- 3) 天井……………吸音材、吸音材吹付仕上

2-7 構造計画

A. 基本方針

タイ国は、アジアの主要地震帯から外れて位置しており、地震は殆どない。又、風圧力についても、年平均風速は約2.3m/sec、最大瞬間風速は28.8m/sec程度である。

本館の構造は、柱梁架構は鉄筋コンクリート造、体育館の屋根架構のみ鉄骨造とする。又、エキスパンジョイントを建物長手に設ける。

Bangkok市の地盤構成は、市内全域にわたって著しい変化はなく、層厚約2mの表土の下に、軟らかい粘土層があり、その下に固い粘土層、密な砂層と続いている。建設敷地の地盤は、有機質土をかなり含んだ表土の下に粘土層があり、深くなるにつれてN値は大きくなっているが、GL-80m前後の砂層までには、明確な支持層はない。従って、本館の基礎形式は、周面摩擦を考慮した支持杭基礎とする。

杭の設計にあたっては地盤沈下によるネガティブフリクション対策が必要である。

B. 構造設計

1) 固定荷重

構造材、仕上材等、建物に固定される材料の自重を全て算出する

2) 積載荷重

各室の積載荷重の概略は下記の通りである。 (単位 = kg/m²)

室名	床版用	柱梁基礎用
集会場 (固定席)	400	270
” (可動席)	400	330
教室	400	210
事務室	400	180
階段・廊下	400	330
観覧席	500	330

床版用積載荷重はBangkok市都市法1979年建物建築基準法によるが、柱梁基礎用の積載荷重は集中係数等を考慮し日本の建築基準法に準拠する。

3) 風圧力

設計用風圧力としては、建物の高さが20mを越えないのでBangkok市都市法に従い 80kg/m^2 をとる。

4) 地震力

特に考慮しない。

C. 構造材料及び工法

構造材料は建物の規模、構造、用途及び現地での供給能力、品質、施工方法と、他国からの輸送条件、価格等により決定される。本センターの建物の建設には、下記の材料が適切であると思われる。尚、構造材料の許容応力度は、日本製の材料については日本建築学会の諸規準に規定されている値を、現地の材料については品質のばらつきを考慮して決定する。

1) コンクリート

セメント、細骨材、粗骨材等、全て現地にて供給可能である。現場にプラントを設け、計量、調合が行なえる様にする。普通コンクリートを使用し、4週強度は 210kg/m^2 が適切と思われる。実際の調合強度は、施工偏差をある程度考慮して計画するのが望ましい。又、現地は高温地帯なので、コンクリートの乾燥硬化によるクラックが発生する恐れがある。これを防ぐため、コンクリートは堅練りとし、打設後は散水を密に行なう等、養生にも注意する。

2) 鉄筋

鉄筋は現地の生産状況を考慮して、主に異型鉄筋のS D30を使用する。尚、現地で製造されている鉄筋サイズは、S D30、40共に、9.5、12、16、19、25、28mmである。

3) 鉄骨

主として材質S S41の日本製鋼材を使用する。

4) 杭

本館、水泳プール、及びバックスタンド部分は支持杭とし、ネガティブフリクション対策として断面積に比べて周長の小さい正方形断面の杭を使用する。

2—8 空気調和換気設備計画

ランニングコストの経済性とメンテナンスの簡便さを主眼点に置き計画する。空調を行なう室を、体育館アリーナ（集会使用時のみ）、ロイヤルボックス、オーディトリウム、図書室、一部事務室等に限定する。

1) 設計条件

(1) 屋外設計条件……………気温36.1℃、湿度58%

(2) 屋内設計条件

体育館アリーナ（4,000人収容時）

……………室温30±4℃、湿度55±10%

オーディトリウム……………室温28±3℃、湿度53±10%

2) 空気調和設備

体育館アリーナについては、パッケージユニットを8～10台設置し、アリーナ内の負荷に応じて台数制御を行なう。メインスタジアム貴賓席、オーディトリウム、図書室、及び一部事務室は、空冷式パッケージユニットにより空調を行なう。

3) 換気設備

便所、シャワー室、厨房は、機械による強制換気を行なう。

2-9 給排水衛生設備計画

1) 給水設備

受水槽（容量約200m³）から、ポンプによって高架水槽（容量約40m³）に揚水し、以降重力式により、各施設に給水する。

施設内の給水主管は、ループ配管とし、給水量の安定を計る。

本センターの概略使用水量は下記の通りである。

(1) 体育館	40 m ³ /day
(2) メインスタジアム	50 m ³ /day
(3) 水泳プール	130 m ³ /day
(4) 事務室	30 m ³ /day
(5) 屋外散水	20 m ³ /day
(6) その他	80 m ³ /day
合計	350 m ³ /day

2) 屋外散水設備

フィールド及び植栽用散水栓を設ける。

3) 排水設備

汚水、雑排水は屋内分流方式とし、屋外で合流させ浄化槽で処理した後、公共下水管に接続、放流する。雨水は、公共下水管に放流する。本センターにおける排水量の概略は、雨期量大11,000m³/dayとする。

4) 衛生器具設備

便所、シャワー室、洗面所に、衛生器具設備を設ける。器具型式は、ローカル式一部洋式とし、現地製品を使用する。水栓類は輸入品を使用する。

5) 汚水浄化槽設備

タイ式とバッキ式を併用する。

2-10 電気設備計画

A. 基幹設備

1) 受変電設備

電力引込みは、高圧3相3線12KVで、変電所に引込まれる。それより380V/220Vに降圧し、各負荷へ電源を供給する。設備負荷は次の通りとする。

- (1) 一般照明・コンセント
- (2) 舞台照明……………体育館、オーディトリウム、野外劇場
- (3) 競技場照明……………メインスタジアム、体育館
- (4) 空調換気設備用動力
- (5) 給排水設備用動力

全体の設備容量は、約1,600KVAとして計画する。

2) 電話設備

電話交換機に局線5回線以上を引込む。内線電話機は約40台設置する。交換機は、本館1階事務室内に設置し、各室へ配線・接続する。

3) 発電機設備

保安照明及び排水ポンプ用として、据置型屋内用ディーゼルエンジンによる自家発電装置を設置する。

B. 一般電気設備

1) 幹線動力設備

動力並びに電灯用の各幹線は、変電所内低圧配電盤の配線用遮断器により回路保護がなされる。幹線は金属電線管配線方式によって建物内の各電灯分電盤、動力制御盤まで配電される。又、メインスタジアム用投光照明については地中配線にて配電する。

各系統における配電の電気方式は下記の通りとする。

- (1) 一般照明・コンセント用幹線……………3相4線380V/220V
- (2) 舞台照明用幹線……………"
- (3) 競技場照明用幹線……………"
- (4) 空調換気設備・給排水設備、その他動力幹線…3相3線380V

音響用電源としては、絶縁変圧器を用い単独幹線系統とし、外来ノイズに対処する。又、テレビ中継用電源は、移動電源車から供給されるものとする。

2) 照明器具設備

照明の光源については、一般諸室は蛍光灯を主体とし、白熱灯及び水銀灯を併用する。又、競技場投光照明は水銀灯、メタルハライドランプ等によるカクテル照明とする。点滅スイッチはグループ毎に操作できる回路構成とする。主要諸室の照度は概ね下記の通りとする。

- (1) 体育館……………500～750 lx
- (2) トレーニング室……………250～300 lx
- (3) 水泳プール……………250～300 lx
- (4) フィールド・トラック……………150～200 lx
- (5) 事務室……………350～400 lx

3) 舞台照明設備

体育館及びオーディトリアムの各舞台照明は調光する。又、野外劇場については、移動用照明装置を設ける。

4) 拡声放送設備

メインスタジアム、体育館、水泳プールに単独放送設備を設ける。

5) 特殊放送設備

舞台用音響装置として、体育館及びオーディトリウムに固定の音響装置を、野外劇場に移動用音響装置を計画する。

6) 得点表示設備

- (1) 体育館……………室内競技用壁付型表示器
- (2) メインスタジアム・水泳プール…自立型得点表示器

7) 火災報知設備

火災発生時、早期に建物内の人々に伝達し避難が行なえる様、手動操作により警報ベルを鳴動できるものとする。オーディトリウム及び体育館には、自動火災警報装置を設ける。

8) 避雷針設備

最高部にラジオアイソトープ型避雷設備を設ける。

9) 屋外灯設備

構内道路及び中央広場に、保安用として設ける。配線は地中ケーブルにてなされ、点滅は自動点滅器及び手動スイッチによる。

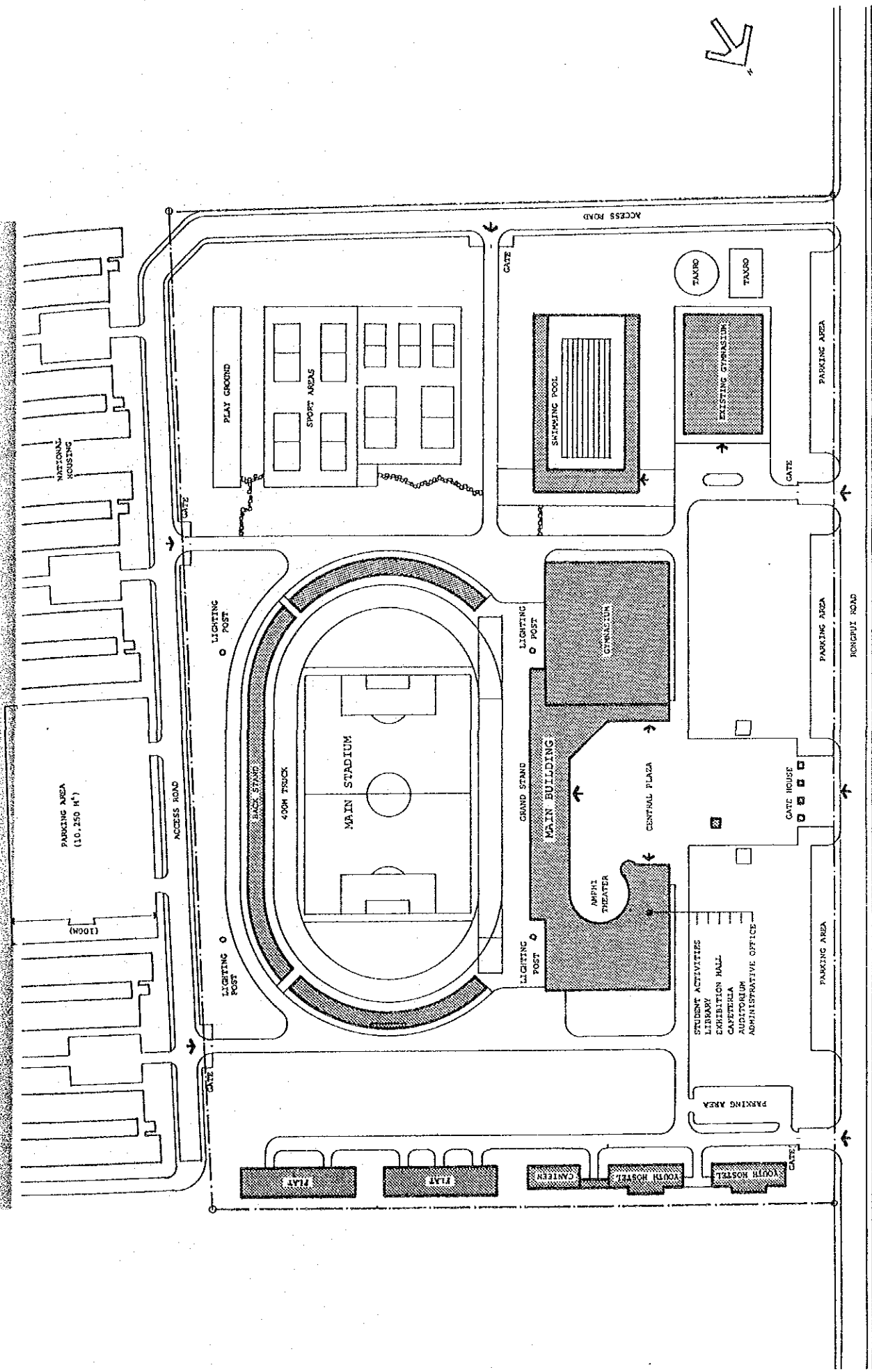
10) テレビ共聴設備

カフェテリア、ロビーに、テレビを設置する。

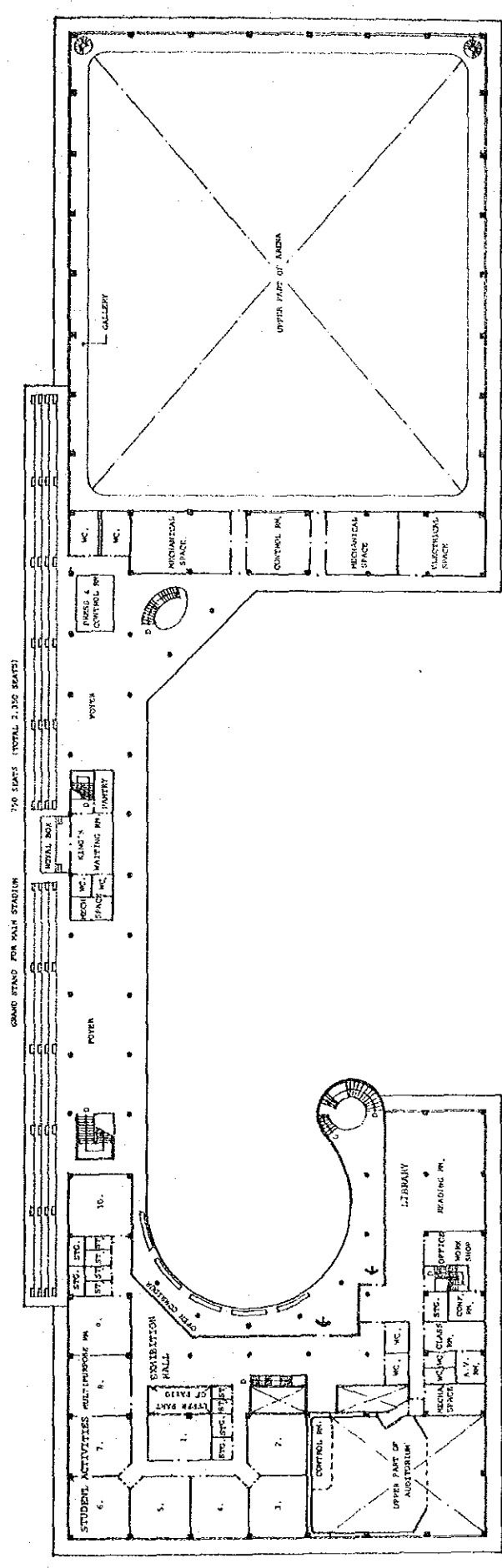
第3章 基本設計計画面

LIST OF DRAWINGS

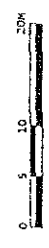
01	MASTER PLAN	
02	MAIN BUILDING	LEVEL 1 FLOOR PLAN
03	MAIN BUILDING	LEVEL 2 FLOOR PLAN
04	MAIN BUILDING	LEVEL 3 FLOOR PLAN
05	MAIN BUILDING	ELEVATION & SECTION
06	MAIN STADIUM	PLAN, ELEVATION & SECTION
07	SWIMMING POOL	PLAN, ELEVATION & SECTION
08	MASTER PLAN (AREA-J)	
09	WATER SUPPLY SYSTEM	
10	DRAINAGE SYSTEM	
11	ELECTRICAL SYSTEM	
12	TELEPHONE SYSTEM	

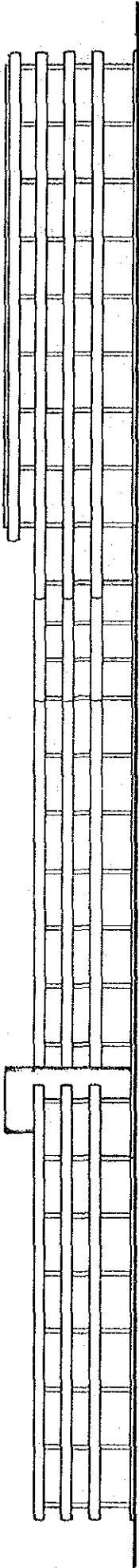


THE YOUTH WELFARE CENTER MASTER PLAN 01

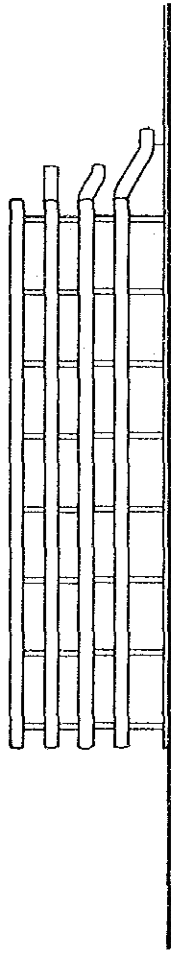


THE YOUTH WELFARE CENTER MAIN BUILDING LEVEL 3 FLOOR PLAN 04

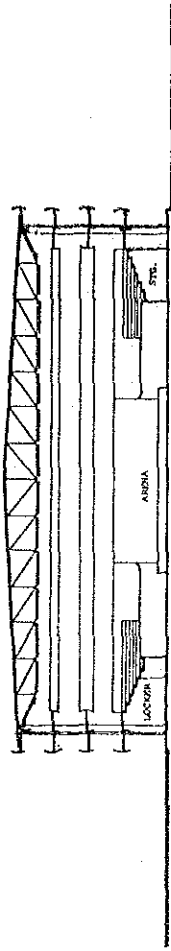




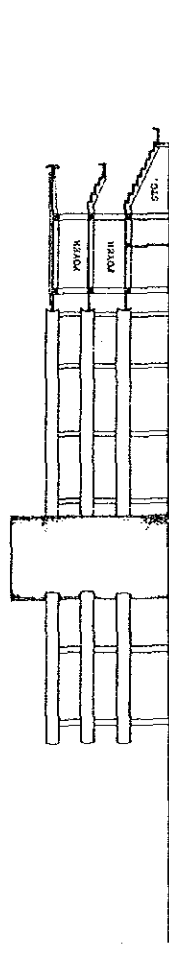
FRONT (WEST) ELEVATION



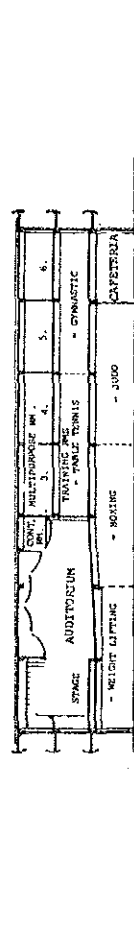
SOUTH ELEVATION



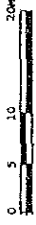
GYMNASIUM SECTION-1

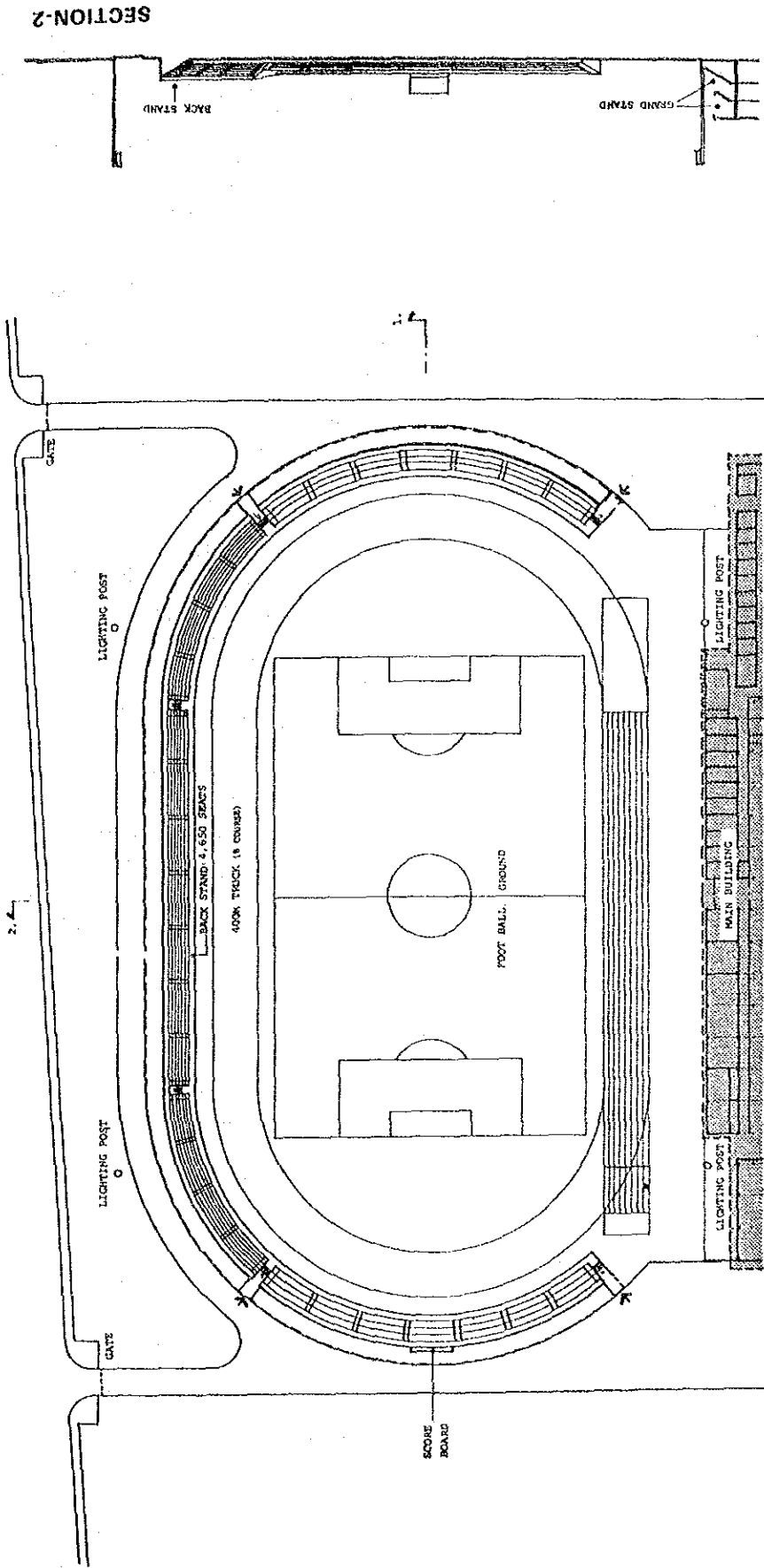


GRAND STAND FOR MAIN STADIUM SECTION-2

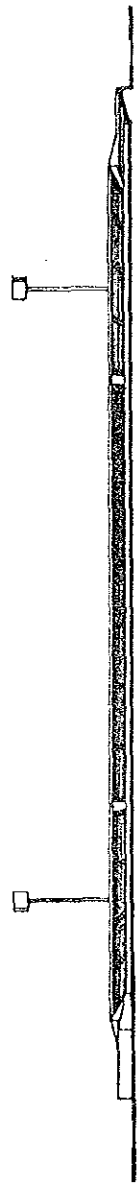


STUDENT ACTIVITIES SECTION-3





PLAN



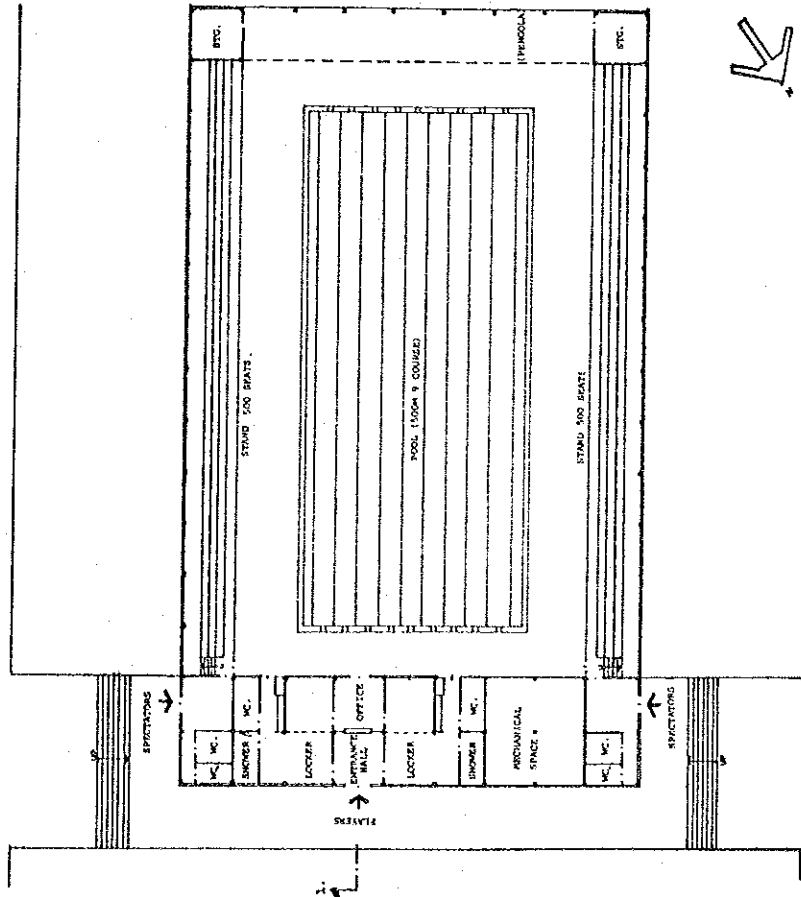
WEST ELEVATION & SECTION-1



SECTION-2

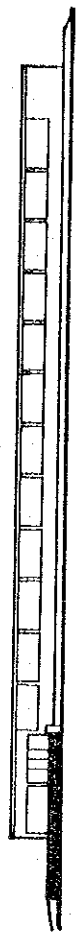


2.

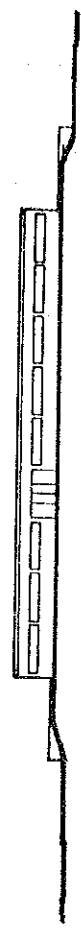


PLAN

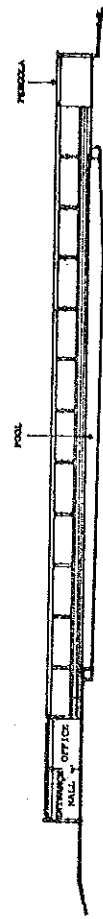
2.



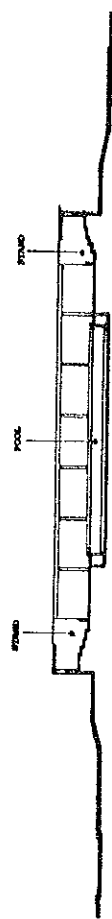
WEST ELEVATION



NORTH ELEVATION



SECTION-1

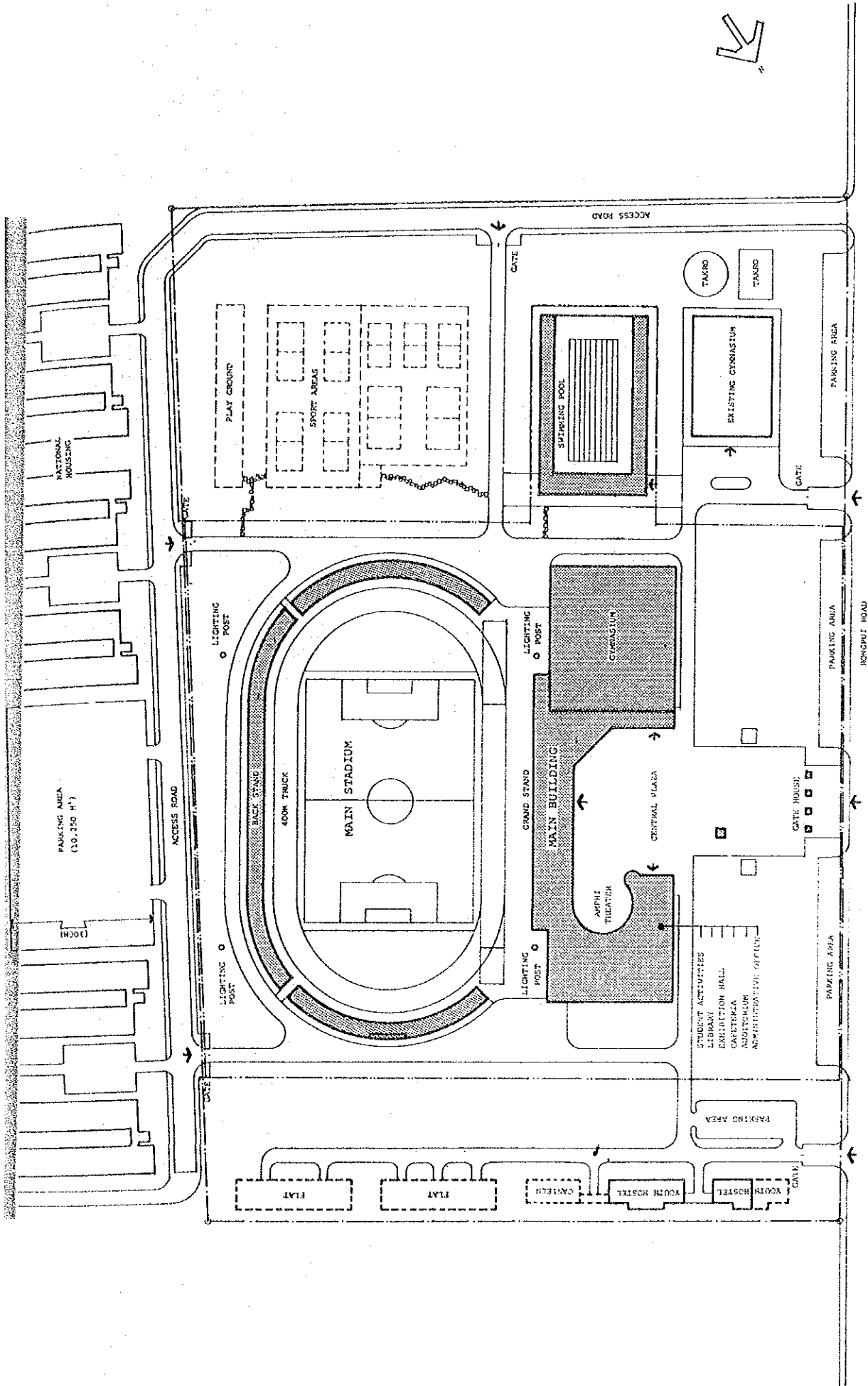


SECTION-2



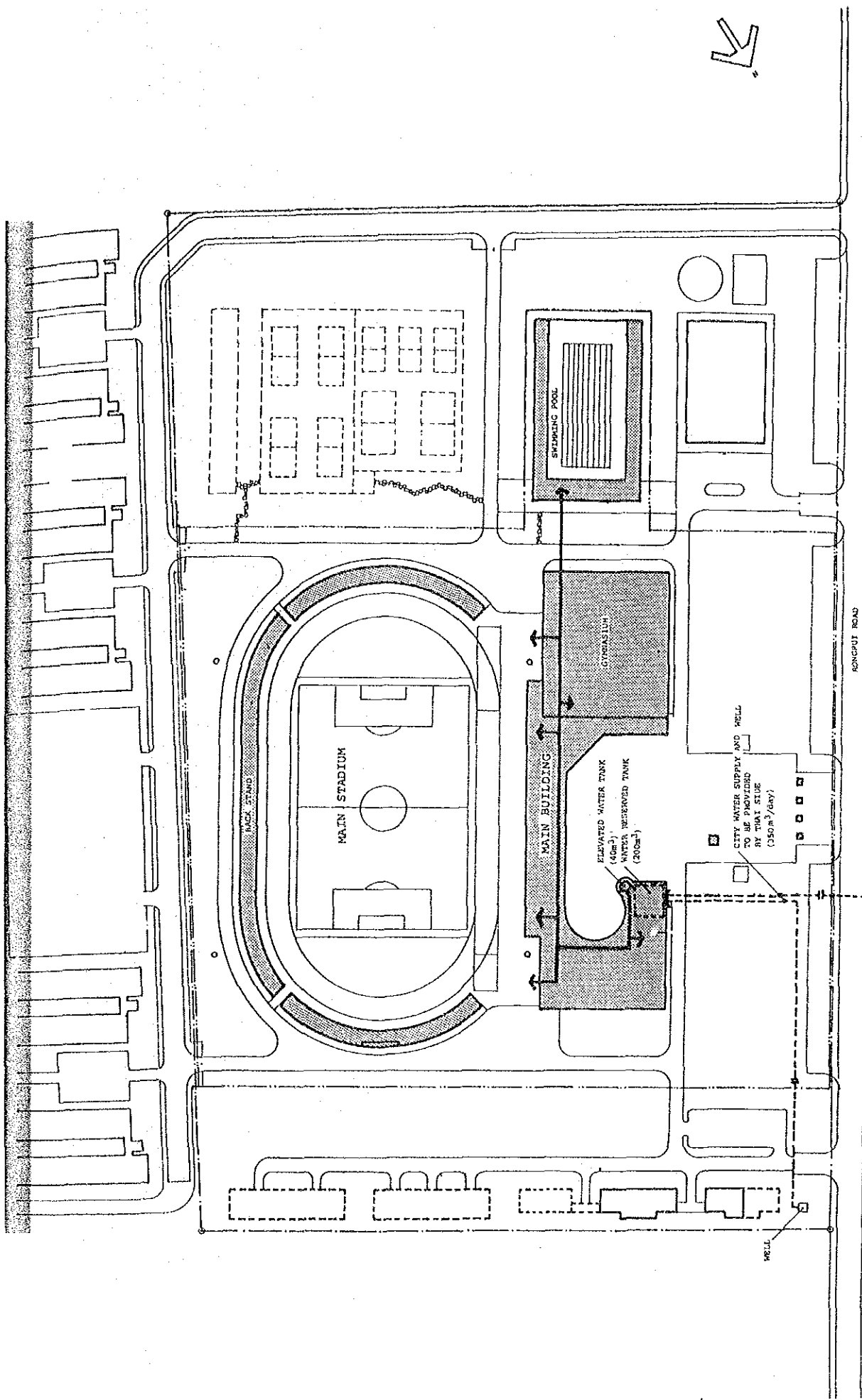
07

THE YOUTH WELFARE CENTER SWIMMING POOL PLAN, ELEVATION & SECTION



[Patterned Box] FACILITIES TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE
 [Dashed Box] FACILITIES TO BE PROVIDED BY THAI SIDE
 [Solid Box] EXISTING FACILITIES
 [Dotted Line] BOUNDARY LINE OF THE CONSTRUCTION SITE
 [Solid Line] BOUNDARY LINE OF AREA-J (THE SCOPE OF WORK TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE)

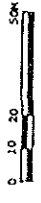
THE YOUTH WELFARE CENTER MASTER PLAN (AREA-J)



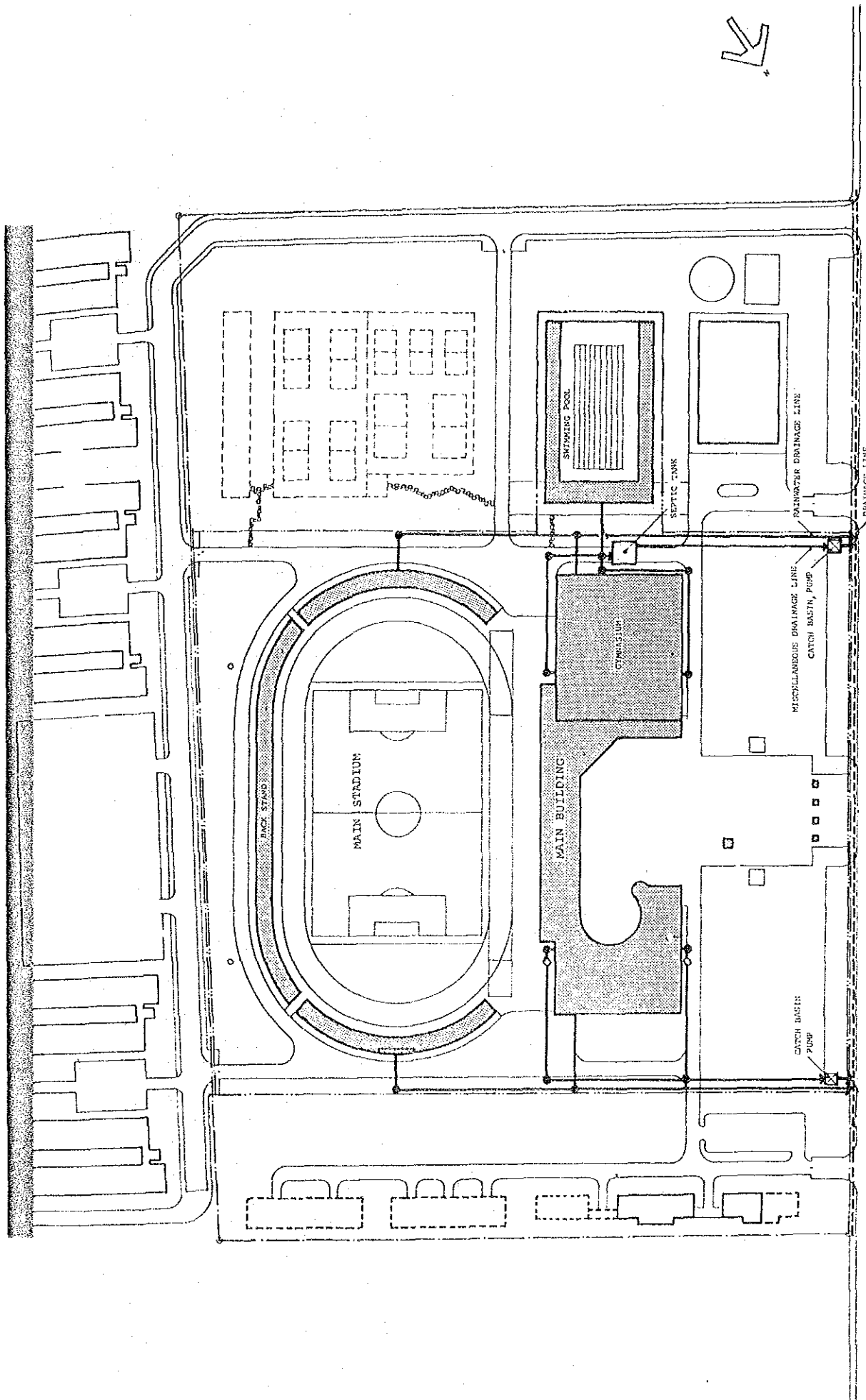
- FACILITIES TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE
- FACILITIES TO BE PROVIDED BY THAI SIDE
- EXISTING FACILITIES
- BOUNDARY LINE OF THE CONSTRUCTION SITE
- BOUNDARY LINE OF AREA-J (THAI SCOPE OF WORK TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE)

WATER SUPPLY LINE

RONGPUI ROAD



THE YOUTH WELFARE CENTER WATER SUPPLY SYSTEM



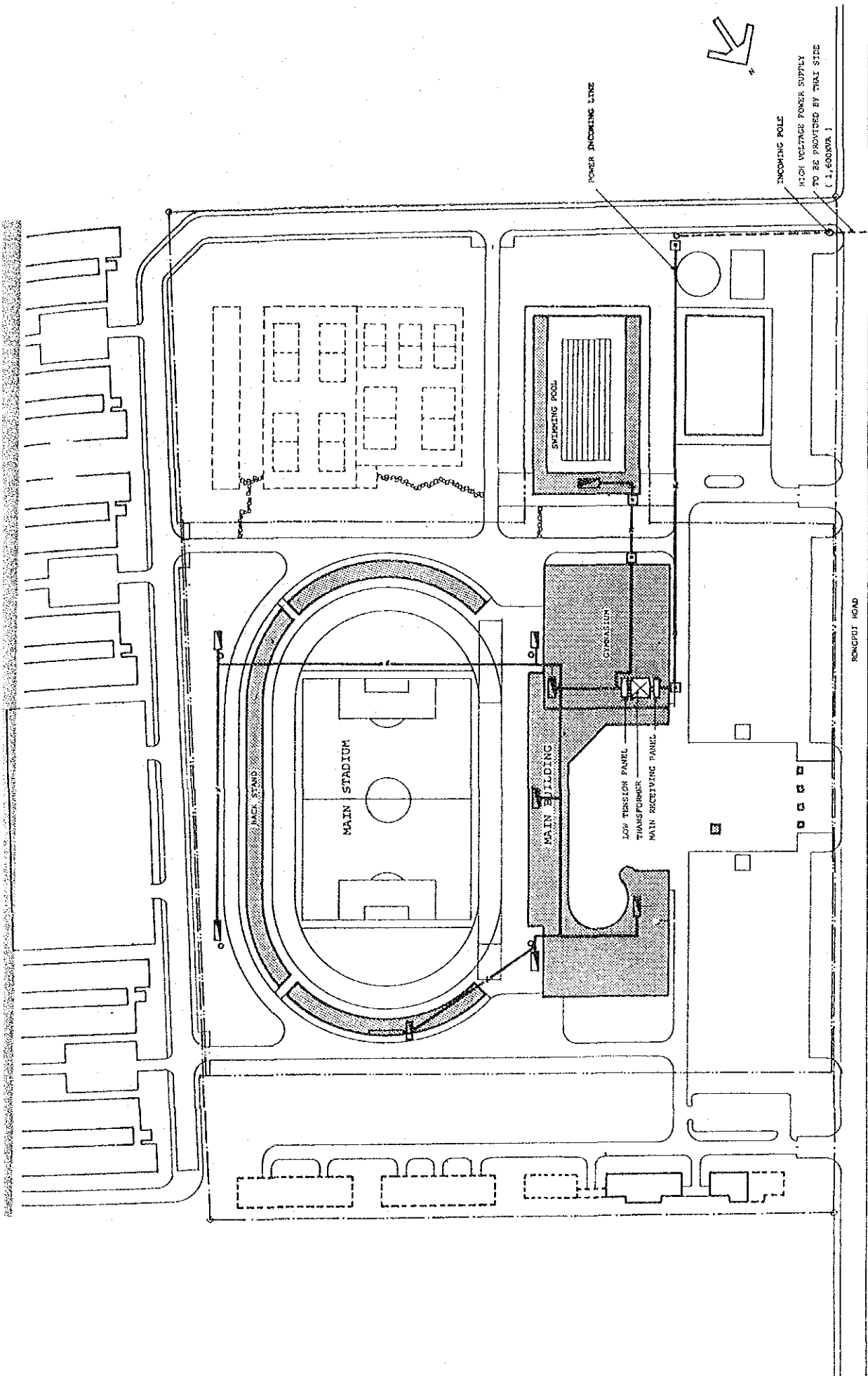
- FACILITIES TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE
- - - FACILITIES TO BE PROVIDED BY THAI SIDE
- EXISTING FACILITIES
- BOUNDARY LINE OF THE CONSTRUCTION SITE
- - - BOUNDARY LINE OF AREA-2 (THE SCOPE OF WORK TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE)

- SEWAGE DRAINAGE LINE
- CATCH BASIN
- SEPTIC TANK

NON-PROFIT ROAD
 DRAINAGE LINE TO BE PROVIDED BY THAI SIDE (11,000m²/day)



THE YOUTH WELFARE CENTER DRAINAGE SYSTEM 10



- FACILITIES TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE
- FACILITIES TO BE PROVIDED BY THAI SIDE
- EXISTING FACILITIES
- BOUNDARY LINE OF THE CONSTRUCTION SITE
- BOUNDARY LINE OF AREA-J (THE SCOPE OF WORK TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE)

- ELECTRIC POWER LINE
- DISTRIBUTION ROAD
- HAND JALL



THE YOUTH WELFARE CENTER ELECTRICAL SYSTEM

INCOMING POLE
HIGH VOLTAGE POWER SUPPLY
TO BE PROVIDED BY THAI SIDE
(1,600KVA.)

POWER INCOMING LINE

RONGPHI ROAD

MAIN STADIUM

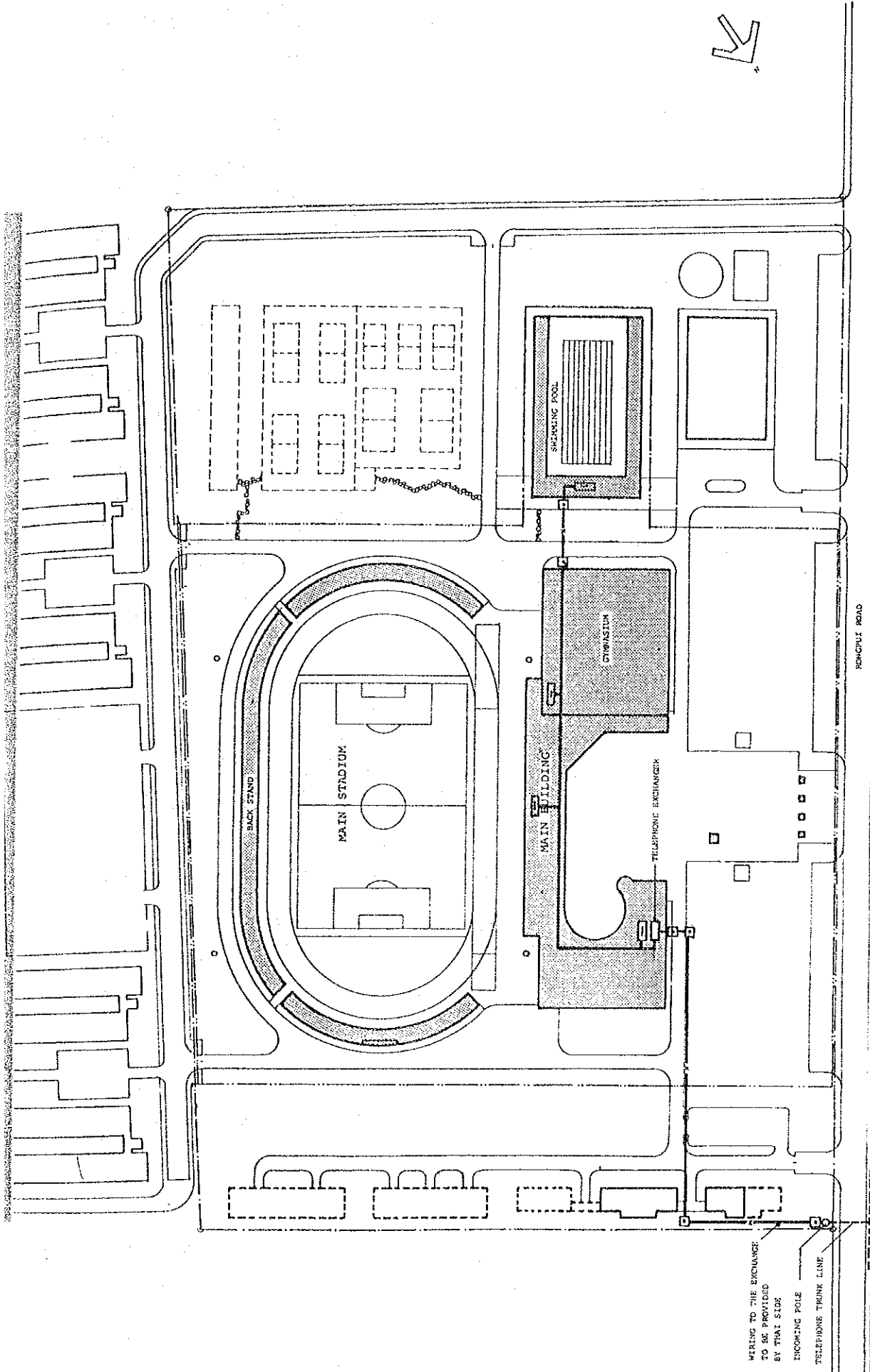
BACK STAND

MAIN BUILDING









LOW TENSION PANEL
TRANSFORMER
MAIN RECEIVING PANEL

STADIUM

SWIMMING POOL



WIRING TO THE EXCHANGE
 TO BE PROVIDED
 BY THAI SIDE
 INCOMING POLE
 TELEPHONE TRUNK LINE

-  FACILITIES TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE
-  FACILITIES TO BE PROVIDED BY THAI SIDE
-  EXISTING FACILITIES
-  BOUNDARY LINE OF THE CONSTRUCTION SITE
-  BOUNDARY LINE OF AREA-3 (THE SCOPE OF WORK TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE)
-  TELEPHONE MAIN LINE
-  TERMINAL POINT
-  HAND HALL



THE YOUTH WELFARE CENTER TELEPHONE SYSTEM 12

第4章 建設計画

4-1 建設工事範囲及び工事分界点

タイ側及び日本側の工事分担範囲及び双方の基幹設備接続位置について、本調査団は、現地滞在中数回にわたり、B. M. A. 担当グループと具体的な討議を行なった。

双方の工事範囲については、Minutesで既に述べられているが、以下では各工事項目毎に負担範囲を整理した。(本文中、AREA-Jとは、本センター計画の内、日本側負担区域の範囲を示し、Tはタイ側を、Jは日本側を示す。)

A. 基幹工事

1) 敷地整備

(T) 工事着工迄に、障害物の除去、及び盛土・整地。

2) 給水

(T) 受水槽(J)へ給水引込み。(容量350m³/day)

(J) 上記以降、AREA-J内の各施設への給水。

3) 電気

(T) 受変電設備(J)へ給電。(容量1,600KVA)

(J) 上記以降、AREA-J内の各施設への給電。

4) 電話

(T) 本館管理事務室に設ける電話交換機(J)まで電話幹線(5局線以上)接続。

(J) 上記以降、AREA-J内の各施設への電話配管配線及び、電話機の設置。

5) 排水

(T) AREA-J内の末端排水樹(J)以降の排水設備
(最大排水量11,000m³/day)

(J) AREA-J内の排水設備

B. 施設及び外構工事

- (T) ● 職員用住居
- ユースホステル
- 各種スポーツエリア
- AREA-J外の駐車場、構内道路、及び門
- 芝貼、植樹、塀
- (J) ● 本館
- メインスタジアム（トラック、フィールド、バックスタンド）
- 水泳プール
- 中央広場
- 野外劇場
- AREA-J内の駐車場、構内道路、及び門

C. 家具及び備品工事

- (T) ● 計画敷地内の全施設の一般事務用家具及び備品
- (J) ● スポーツ器具
- 図書室用書架
- オーディトリウム客席
- 体育館観覧席
- メインスタジアム観覧席

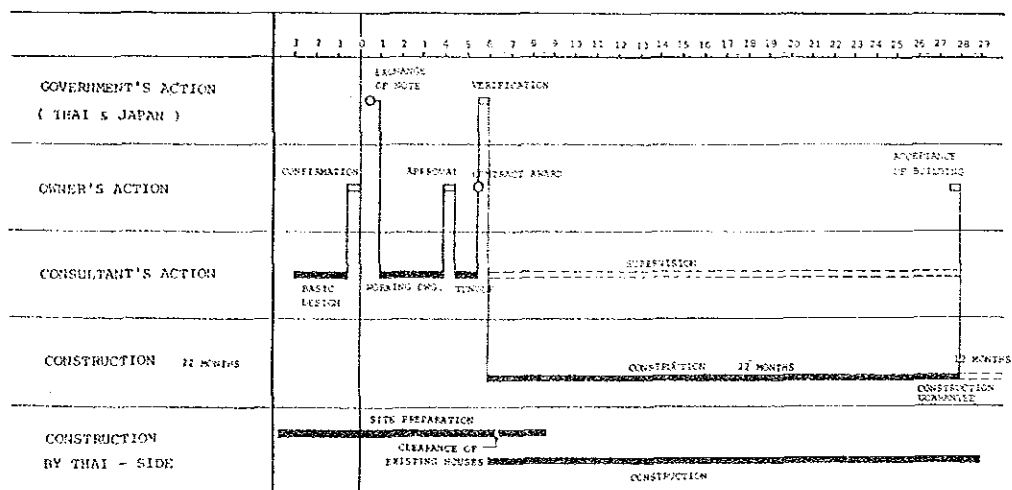
D. 資材運搬

- (T) タイ国に輸入される資材のBangkok港における陸上げ、通関手続き、及び計画敷地迄の運搬。
- (J) 日本から輸出されている資材の梱包、保険料負担、船積み及び海上運搬。

4-2 建設工期

本施設建設無償援助に関し、両国政府間で交換公文の締結後、実施設計作業に入る。実施設計期間中に、工事に必要な各設計図、仕様書の作成、工事入札契約に必要な図書を準備する。実施設計図書完成後、内容について施主側の承認を得、請負業者を召集し入札を行なう。落札業者と施主間での契約調印後、日本政府認証を得、工事に着手する。建設工事に要する期間は本施設の規模、構造、設備内容から判断し約22ヶ月と予想される。

建設保証期間は、竣工引渡し後一年間である。



TENTATIVE CONSTRUCTION SCHEDULE

4—3 建設費概算予算

A. 設定条件

本センターの建設費概算予算算出に当り、次の条件設定を行なった。

- 1) 概算予算算出時点……………昭和54年8月現在
- 2) 外国為替交換比率……………1 U.S.\$ = 20 Baht = 220円
- 3) 使用建設資材及び機材……日本製及び現地製を原則とし、日本からの輸入資材に対して梱包費、海上運賃、保険料を含む。但し、上記に課せられる輸入税、輸入資材の現地内陸運搬費は除外した。
- 4) 積算有効期限……………昭和54年8月から6ヶ月間を有効期限とし、以降の物価・労賃の変動によるスライドは見込んでいない。
- 5) 現地での工事に際し、本プロジェクト建設のみに関して、建設業者に課せられる税は免税されるものとする。

Ｂ．建設費概算予算

	(単位：千円)		
	54年度	55年度	合 計
1) 建築工事	817,000	1,340,000	2,157,000
(1) 本館	666,000	479,000	1,145,000
(2) メインスタジアム	151,000	601,000	752,000
(3) 水泳プール	-----	170,000	170,000
(4) 中央広場	-----	58,000	58,000
(5) 野外劇場	-----	32,000	32,000
2) 外構工事	-----	105,000	105,000
(駐車場、構内道路、建物周辺施設、屋外灯設備等)			
3) 基幹工事	100,000	85,000	185,000
(受変電設備、幹線設備、自家発電設備、電話設備、給水設備)			
(散水設備、汚水浄化設備、構内排水設備、屋外消火栓設備)			
4) 家具備品工事	-----	30,000	30,000
5) 設計監理報酬	83,000	156,000	239,000
総 計	1,000,000	1,716,000	2,716,000

資 料 編

第5章 調査団の派遣

5-1 調査団の派遣目的

タイ王国政府は、昭和53年日本国政府に対し、スポーツ、文化両面にわたる青少年活動のための施設・青少年福祉センターの建設計画に関する無償援助協力を要請した。

タイ国Bangkok市には、現在青少年福祉、課外教育を目的とする青少年施設が、約20ヶ所あり、各施設はスポーツ活動、サークル活動等、青少年に汎く利用されている。しかしながら、これらの施設内容は必ずしも十分なものではない。これらの核となる施設として、本青少年福祉センター建設が、企画・立案された。本センターは青少年のみならず汎く一般市民をも利用対象に考えているが、更に本プロジェクトは、Chakri王朝200周年記念というタイ国民にとっての大きな行事に焦点をあわせた事業として、タイ国民の強い関心と期待の的となっている。

本プロジェクトが、タイ国民全般の健康、社会福祉の向上を目的とするものであり、かつ日本国政府の援助協力によりタイ国社会経済発展の一環を担う事が、永年友好、交流を続けている両国間の関係を増進するものと判断し、日本国政府は、タイ王国政府の要請に基づき、その要請内容の把握のため、昭和53年9月事前調査団を派遣した。

本調査団は、この事前調査の結果を踏まえ、青少年福祉センターの建設に係る基本設計を行なう目的で派遣された。

5—2 調査関係者

A. 調査団の構成

● 事前調査団

団 長	武藤正敏		外務省経済協力局開発協力課総務班長
団 員	相賀敏孝		(株)久米建築事務所

● 基本設計調査団

団 長	島 喜八	総括・体育	文部省体育局体育課教科調査官
団 員	光安常喜	社会教育	文部省社会教育局社会教育課専門員
”	小島真人	無償協力	外務省経済協力局経済協力二課
”	相賀敏孝	建築総括	(株)久米建築事務所
”	伊平則夫	建築構造	”
”	田中 誠	建築設備	”
”	兎玉耕二	建築積算	”
”	阿井俊雄	業務調整	国際協力事業団社会開発協力部 開発調査業務室

● 基本設計確認調査団

団 長	相賀敏孝		(株)久米建築事務所
団 員	伊平則夫		”
”	阿井俊雄		国際協力事業団社会開発協力部 開発調査業務室

B. タイ側関係者

● Department of Technical and Economic Cooperation - D.T.E.C.

Dr. Xujati Pramoolpol	Director-General
Mr. Pracha Chaowasilp	Director, Colombo Plan Division
Mr. Apimuk Sukprasit	Colombo Plan Division
Mr. Sutin Susila	Colombo Plan Division
Mr. Tawal Polpuech	Colombo Plan Division

● Ministry of Education

Dr. Bunsom Martin	Minister
Dr. Kaw Swasdi Panich	Deputy Minister
Mr. Suvid Visuddhisin	Secretary
Mr. Sen Keoyote	Planning Organizer

● Bangkok Metropolitan Administration - B.M.A.

Mr. Chaowas Sudlabha	Governor
Mr. Somchai Wudhiprecha	Deputy Governor
Mr. Thumrong Padhanarath	Under Secretary of State
Mr. Muanochai Tajaroensuk	Secretary to the Deputy Governor
Mrs. Kruawal Sukhumanonta	Director, Bureau of Social Welfare
Mr. Snoh Iamopas	Director, Bureau of Sanitation
Mr. Bampen Jatoorapreuk	Director, Design Division
Mr. Pramual Vimolnoj	Chief, Fertilizer Plant Division
Mr. Boonyawat Tiptus	Chief, Design Division
Mr. Bhiroj Bhirunrat	Chief, Recreation Division
Mr. Orabhan Chatuparisut	Chief, Youth Center Section
Mr. Nibhon Lanlua	Chief, Promoting Sports Section
Mr. Boonyakit Stamsakul	Chief, Foreign Relation Office
Mr. Wisut Panutat	Architect
Mr. Prasit Sathorn	Civil Engineer
Miss Jatoobhon Suawanasri	Architect, Design Division
Mr. Paradorn Tanyakorndilole	Architect, Building Control Division
Mrs. Soyangkoon Panapornsirikul	Officer, Foreign Relation Office

● National Housing Authority

Mr. Sompong Hirikul	Deputy Director, Estate Management Dept.
Mr. Boonfaung Pringsulaka	Assistant Director, Dept. Research & Construction

C. 在タイ日本側関係者

● 在タイ日本国大使館

人見 宏	特命全権大使
田中常雄	公使
湯下博之	参事官
秋口守国	一等書記官

● 国際協力事業団 Bangkok 海外事務所

北野康夫	所長
地曳隆紀	所員

3 調査団の日程

基本設計調査団は、下記の通り、タイ王国現地の調査を15日間にわたって行なった。

日 類	月 日	曜 日	行 程	調 査 内 容
1	6月10日	日	東京発 13:30 Bangkok着 17:00 (JALJ61便)	日本国大使館秋口一等書記官、JICA、Bangkok事務所現地要員の出迎え受く
2	11日	月	午前 日本国大使館 JICA、Bangkok事務所 午後 D.T.E.C. B.M.A. B.M.A.	田中公使、湯下参事官を表敬訪問 調査日程、調査内容の打合わせ 表敬訪問、調査内容の説明 表敬訪問 B.M.A.招宴
3	12日	火	午前 B.M.A. 午後 Din Daeng Bangkok市内	実質討議 敷地周辺調査 関連施設調査 (chulalongkorn大学付属小学校、体育教育学部)
4	13日	水	午前 タイ首相私邸 午後 B.M.A. Din Daeng B.M.A.	島団長と相賀団員、人見大使、田中公使に随行し模型提出及び計画内容説明 調査方針、日程調整の打合わせ 島団長他、敷地調査 計画案及び検討資料の作成
5	14日	木	午前 B.M.A. 午後 B.M.A. 教育庁	実質討議 実質討議 島団長と光安団員、表敬訪問
6	15日	金	午前 Din Daeng Bangkok市内 午後 B.M.A.	敷地調査 関連施設調査 (Lumpini Youth Center) 計画案に関する討議
7	16日	土	Bangkok市内	建設市場調査
8	17日	日	Bangkok市内	建設現場見学
9	18日	月	午前 B.M.A.、D.T.E.C. Bangkok市内 午後 "	一部団員、Minutesに関する打合わせ 諸施設見学調査 (National Stadium) " (National Sports Complex, Kasetsart Univ. Swimming Pool)
10	19日	火	午前 日本国大使館 JICA、Bangkok事務所 午後 B.M.A.	調査経過中間報告 実質討議
11	20日	水	午前 水道局、M.E.A. 午後 B.M.A.	上水道、下水道、電気関係調査 実質討議
12	21日	木	午前 D.T.E.C. 午後 B.M.A. Ambassador Hotel	Minutesに関する打合わせ 実質討議 B.M.A.招宴
13	22日	金	午前 New Amarin Hotel 午後 D.T.E.C. Ambassador Hotel	資料整理 Minutesに署名 (島団長、D.T.E.C.守舎、B.M.A.知事代行) 団長招宴
14	23日	土	午前 Bangkok市内 午後 New Amarin Hotel	建設市場調査 資料整理、帰国準備
15	24日	日	Bangkok発 11:30 東京着 21:00 (JAL718便)	調査団帰国

YOUTH CENTRE PLANNED FOR DIN DAENG

A MODEL of a planned Youth Welfare Centre was presented to Prime Minister Gen Kriangsak Chomanan by Japanese Ambassador Hiroshi Hitomi at the Prime Minister's residence on Wednesday with Thai and Japanese officials witnessing the ceremony.

The Youth Welfare Centre will be constructed in Din Daeng area to commemorate the bi-centennial of the foundation of the capital city. The centre aims to contribute to the strengthening of solidarity and understanding among citizens, especially the young generation, through activities in such areas as group work, welfare, culture, sports and training course.

Among the facilities envisaged for this Welfare Centre are a gymnasium with a stage, small meeting rooms, exhibition rooms, a library and an auditorium which are planned to be constructed during the present Japanese fiscal year. Other facilities, such as the main stadium, a small outdoor theatre and an outdoor swimming pool are expected to be constructed at a later stage.



Looking at the model of the Youth Welfare Centre (see story) are, from left, Mr T. Tanaka, Mr M. Akiguchi, Gen Kriangsak Chomanan and Japanese Ambassador Hiroshi Hitomi.



COURTESY VISIT TO D.T.E.C.

DATE : 11, JUNE, 1979
PLACE: D.T.E.C.



COURTESY VISIT TO B.M.A.

DATE : 11, JUNE, 1979
PLACE: B.M.A.



DISCUSSION WITH
B.M.A. AUTHORITIES

DATE : 13, JUNE, 1979
PLACE: B.M.A.



SIGNING OF MINUTES

DATE : 22, JUNE, 1979
PLACE: D.T.E.C.



SIGNING OF
RECORD OF THE DISCUSSIONS

DATE : 17, AUGUST, 1979
PLACE: D.T.E.C.

5-4 討議の経緯

調査団は現地において調査、並びに先方担当省庁と討議を行なった。主たる先方担当省庁は、D.T.E.C. (総理府技術経済協力庁) と B.M.A. (Bangkok 首都庁) である。特に B.M.A. とは、本センターの運営主体として予定されていることから、詳細な討議を行なった。

討議は終始積極的に行なわれた。先方は本プロジェクトに極めて熱心であり、又、一般市民及びマスコミの関心も高く、討議の様子は現地の新聞、テレビ等に報道された。

基本設計調査期間中に、タイ側から本プロジェクトの建設予定敷地として、南北に近接した2つの候補敷地 (当初予定されていた敷地を含む) が提示され、両案の検討を要請された。調査団はタイ側の要請に基づき、現地において両敷地についてマスタープラン案を作成、提案した。又、両案に関して建設上の要件を添付した。

タイ側は調査団からの提案に対し、建設実施工程等、詳細にわたる調査検討を行なった上で、最終的に南側敷地において本センター建設を実施したい旨、表明し、調査団作成のマスタープラン案に若干の修正を加え最終案として了承した。調査団は、この方針に基づき調査を遂行し、確認調査の折に双方の合意事項を以下の如く討議要録にまとめ、D.T.E.C. 並びに、B.M.A.、調査団長との間で署名を行なった。

討議要録

1. 日本国政府は、昭和54年6月における基本設計調査団と、タイ国関係者—D.T.E.C.及びB.M.A.との間での討議に基づいて作成された青少年福祉センターの基本設計及び基本設計報告書案の承認のため、国際協力事業団を通じ、相賀敏孝氏を団長とする調査団を昭和54年8月13日より再度、現地に派遣した。

調査団は、B.M.A.関係者に、報告書案を説明し、担当者と詳細にわたった討議を行なった。

2. B.M.A.と調査団との間で下記について双方合意確認した。

a) ANNEX—Iに示すマスタープラン

(敷地 = Bangkok市、Phaya Thai区、Din Daeng)

b) 日本国政府は、ANNEX—IIに記載の各施設の建設を実施する。

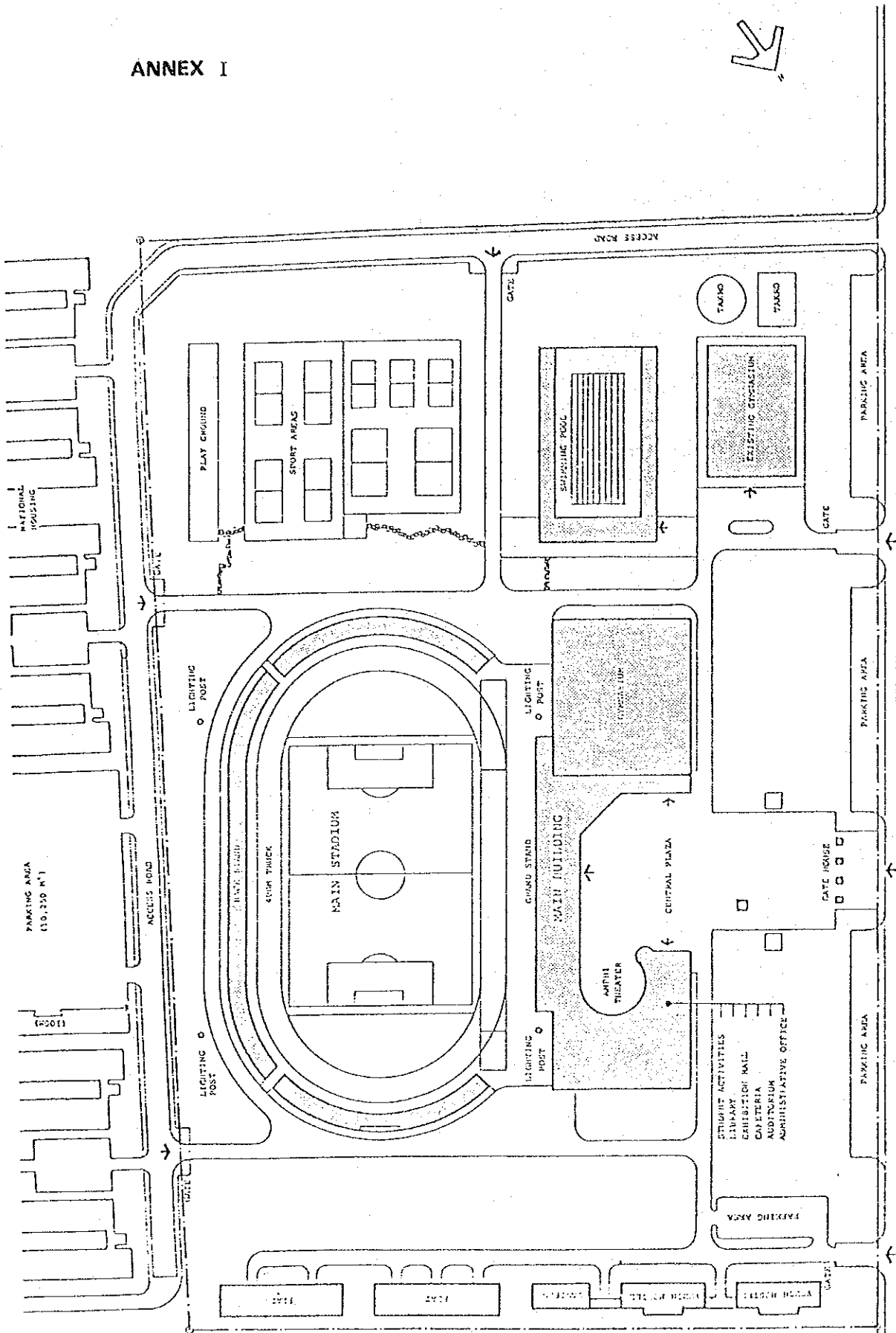
c) タイ王国政府は、次の項目について実施する。

1) 建設に必要な情報、資料の提供

2) ANNEX—IVに記載された各項目

d) 調査団提案の基本設計及び基本設計調査報告書案を、実施設計に伴う若干の変更の可能性を残して、合意・了承した。

ANNEX I



PARKING AREA
(110,000 M²)

110000

PLAY GROUND

SPORT AREAS

MAIN STADIUM

LIGHTING POST

LIGHTING POST

CONVEYER BELT

COURT TRACK

GATE

SUNSHINE POOL

LIGHTING POST

LIGHTING POST

MAIN BUILDING

AMPHI THEATER

CENTRAL PLAZA

TAXI

TAXI

EXHIBITION DISPENSARIUM

GATE

PARKING AREA

PARKING AREA

PARKING AREA

GATE HOUSE

STREET ACTIVITIES

LIBRARY

EXHIBITION MALL

CAFETERIA

AUDITORIUM

ADMINISTRATIVE OFFICES

PARKING AREA

GATE

ACCESS ROAD

ACCESS ROAD

PULCHIT ROAD

0 20 40 60 80 100

ANNEX I

ANNEX-II 日本国政府の供与する施設

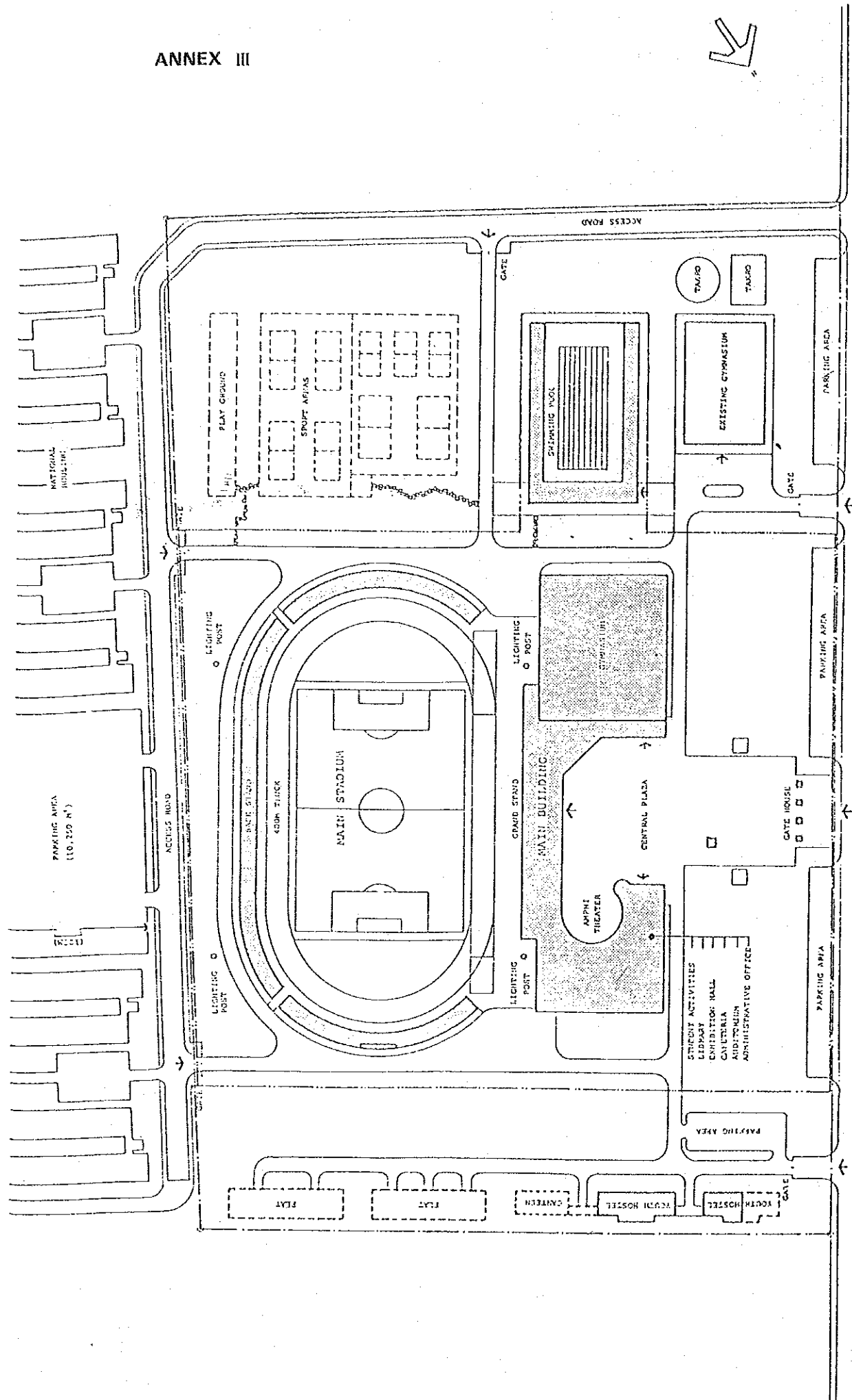
1) AREA-J内の各施設 (ANNEX-IIIに示す)

- a) 本館……体育館、スチューデント・アクティビティ、図書室、
オーデトリウム、展示場、カフェテリア、
管理事務室、メインスタジアム観覧席
- b) メインスタジアム (トラック、フィールド)
- c) バックスタンド
- d) 水泳プール
- e) 中央広場
- f) 野外劇場
- g) 門
- h) AREA-J内の駐車場
- i) 上記各施設への構内道路

2) 家具及び備品

- a) スポーツ器具
- b) 図書室の書架
- c) オーデトリウムの客席
- d) 体育館の観覧席
- e) メインスタジアムの観覧席

ANNEX III



FACILITIES TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE
 FACILITIES TO BE PROVIDED BY THAI SIDE
 EXISTING FACILITIES

ANNEX-IV タイ王国政府の負担項目

1) 基幹工事

- a) 工事着手前迄に、敷地内の既存建屋の除去、盛土、及び整地
- b) 本センターに必要な電気、水道、排水施設、電話施設の敷地迄の供給

2) 施設

- a) 職員用住宅 (家具を含む)
- b) ユースホステル (")
- c) AREA-J外の駐車場
- d) スポーツエリア
- e) AREA-J外の構内道路
- f) 芝、植木、及び塀

3) 家具及び備品

敷地内の全施設の事務用家具及び備品

4) 本センター建設に係わる日本からの機材及び資材の陸揚げ、通関、及び敷地までの内陸輸送費

5—5 参考資料

- A. Chakri王朝系譜
- B. タイ側関係組織図
- C. 討議要録
- D. タイ側提出文書

A. Chakri 王朝系譜

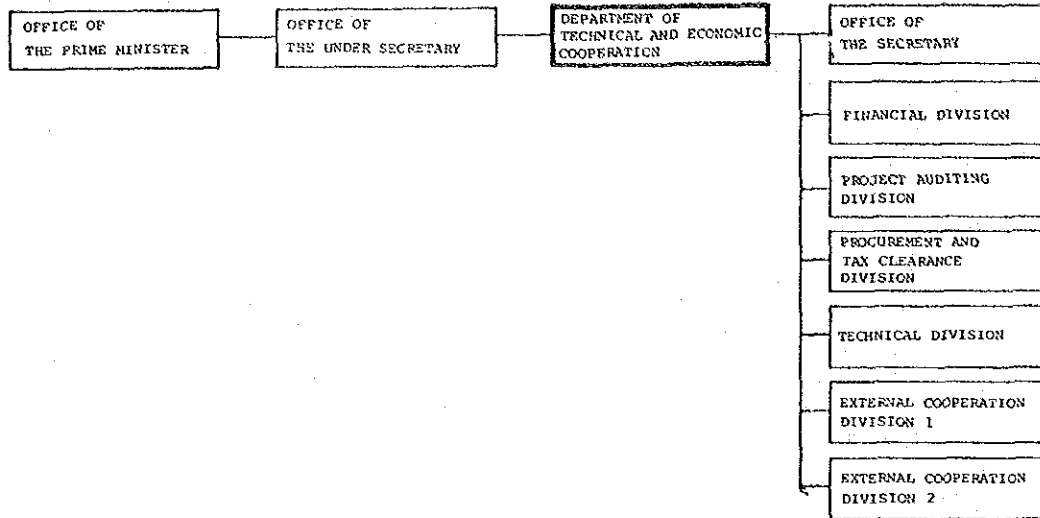
KINGS OF THE CHAKRI DYNASTY

Name	Reigning Title	R'g No.	Relationship	Born	Reigning Periods				Age	
					Accession	Coronation	Termination	Years		Government
-	PHRA BUDDHA-YODFA CHULALOK	I	-	20 Mar. 1736 (B.E. 2279)	6 April 1782 (BE 2325)	13 June 1782 (BE 2325)	7 Sept. 1809 (BE 2325)	28	Absolute Monarchy	74
-	PHRA BUDDHA-LOETLA NABHALAI	II	Son of Rama I	24 Feb 1767 (BE 2310)	7 Sept 1809 (BE 2352)	17 Sept 1809 (BE 2352)	21 July 1824 (BE 2367)	15	Absolute Monarchy	58
-	PHRA NANG-KLAO CHAOYUHUUA	III	Son of Rama II	31 Mar 1787 (BE 2330)	21 July 1824 (BE 2367)	1 Aug 1824 (BE 2367)	2 April 1851 (BE 2394)	27	Absolute Monarchy	65
KING MONGKUT	PHRA CHOM-KLAO CHAOYUHUUA	IV	Brother of Rama III	18 Oct 1804 (BE 2347)	2 April 1851 (BE 2394)	15 May 1851 (BE 2394)	1 Oct 1868 (BE 2411)	18	Absolute Monarchy	65
KING CHULA-LONGKORN	PHRA CHULCHOM-KLAO CHAOYUHUUA	V	Son of Rama IV	20 Sept 1853 (BE 2395)	1 Oct 1868 (BE 2411)	11 Nov 1868 (BE 2411)	23 Oct 1910 (BE 2453)	43	Absolute Monarchy	58
KING VAJIRA-VUDH	PHRA MONGKUT KLAO CHAOYUHUUA	VI	Son of Rama V	1 Jan 1880 (BE 2423)	23 Oct 1910 (BE 2453)	11 Nov 1910 (BE 2453)	25 Nov 1925 (BE 2468)	15	Absolute Monarchy	16
KING PRAJADIII-POK	PHRA POK-KLAO CHAOYUHUUA	VII	Brother of Rama VI	8 Nov 1893 (BE 2436)	26 Nov 1925 (BE 2468)	25 Feb 1926 (BE 2469)	Abdicated 2 March 1935 (Died 30 May 1941)	10	Absolute Monarchy (ill 24 June 1932 then Constitutional Monarchy)	13
KING ANANDA MAHDOL	PHRA PARAMINDRA MAHA ANANDA MAHDOL	VIII	Nephew of Rama VII	20 Sept 1925 (BE 2468)	7 Mar 1935 (BE 2478)	-	9 June 1946 (BE 2489) (Cremation 26.3.50)	12	Constitutional	11
KING BHUMIBOL ADULYADEJ	PHRA PARAMINDRA MAHA BHUMIBOL ADULYADEJ	IX	Brother of Rama VIII	5 Dec 1927 (BE 2470)	9 June 1946 (BE 2489)	5 May 1950 (BE 2493) (Marriage 28.4.50)	Whom may God preserve	-	Constitutional	Long Live The King

Prior to 1941 the Thai year began on April 1st, but in that year it was changed to January 1st to coincide with the accepted international calendar year. The year B.E. 2483 thus had only nine months in it.

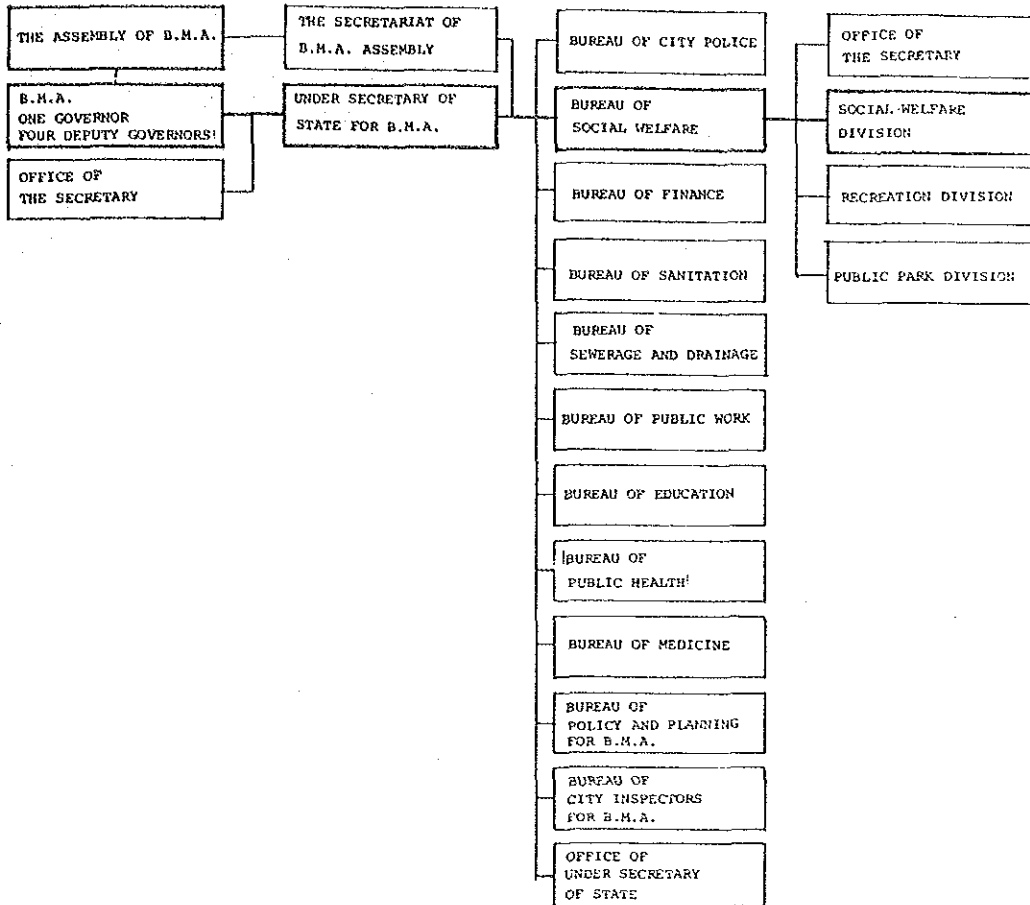
Б. タイ側関係組織図

(1) D.T.E.C.

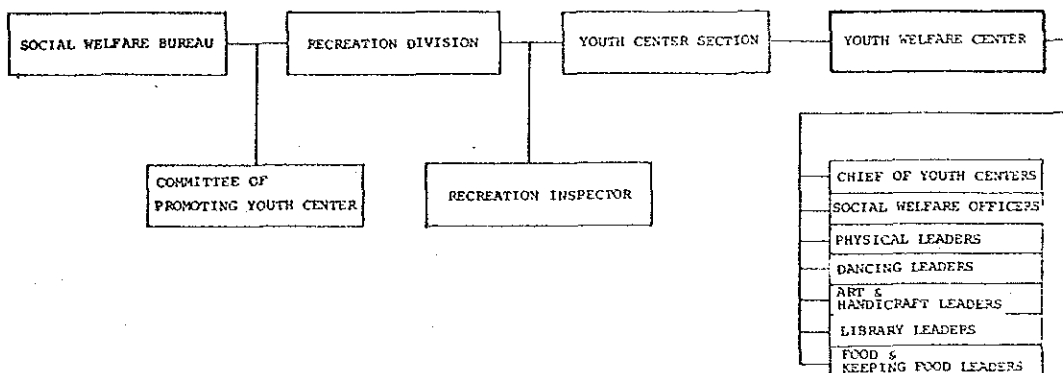


ORGANIZATION CHART OF D.T.E.C.

(2) B.M.A. (B.M.A.提供資料による)



ORGANIZATION CHART OF B.M.A.



ORGANIZATION CHART OF THE YOUTH WELFARE CENTER

C. 討議要録

(1) MINUTES (JUNE, 22, 1979)

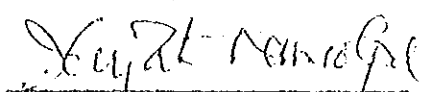
THAI - JAPANESE COOPERATION
ON THE YOUTH WELFARE CENTER PROJECT

At the request of the Government of Thailand for assistance in constructing the Youth Welfare Center (hereinafter referred to as "the Center"), the Government of Japan through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") has sent a preliminary survey team led by Mr. Masatoshi Muto, Ministry of Foreign Affairs, from 19th to 28th September, 1978.

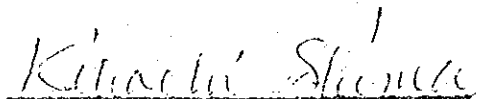
Based on the results of the aforementioned survey, the Government of Japan had decided to conduct a study necessary for the preparation of the basic design of the Center and the survey team organized by JICA and led by Mr. Kihachi Shima, Ministry of Education, visited Thailand for fifteen days from 10th June 1979 for the purpose of drawing up the basic design for the construction of the Center which will constitute an important integral part of youth welfare activities in Thailand.

The team held a series of discussions and exchanged views with Thai authorities concerned on the construction of the Center.

As a result of the survey and discussions, both parties have agreed to recommend to their respective Governments, to carry out the matters referred to in the Minutes of the Discussions which are attached herewith.



Mr. Sujati Prasoolpol
Director General
Department of Technical
and Economic Cooperation



Mr. Kihachi Shima
Team Leader
Japanese Basic Design Survey Team

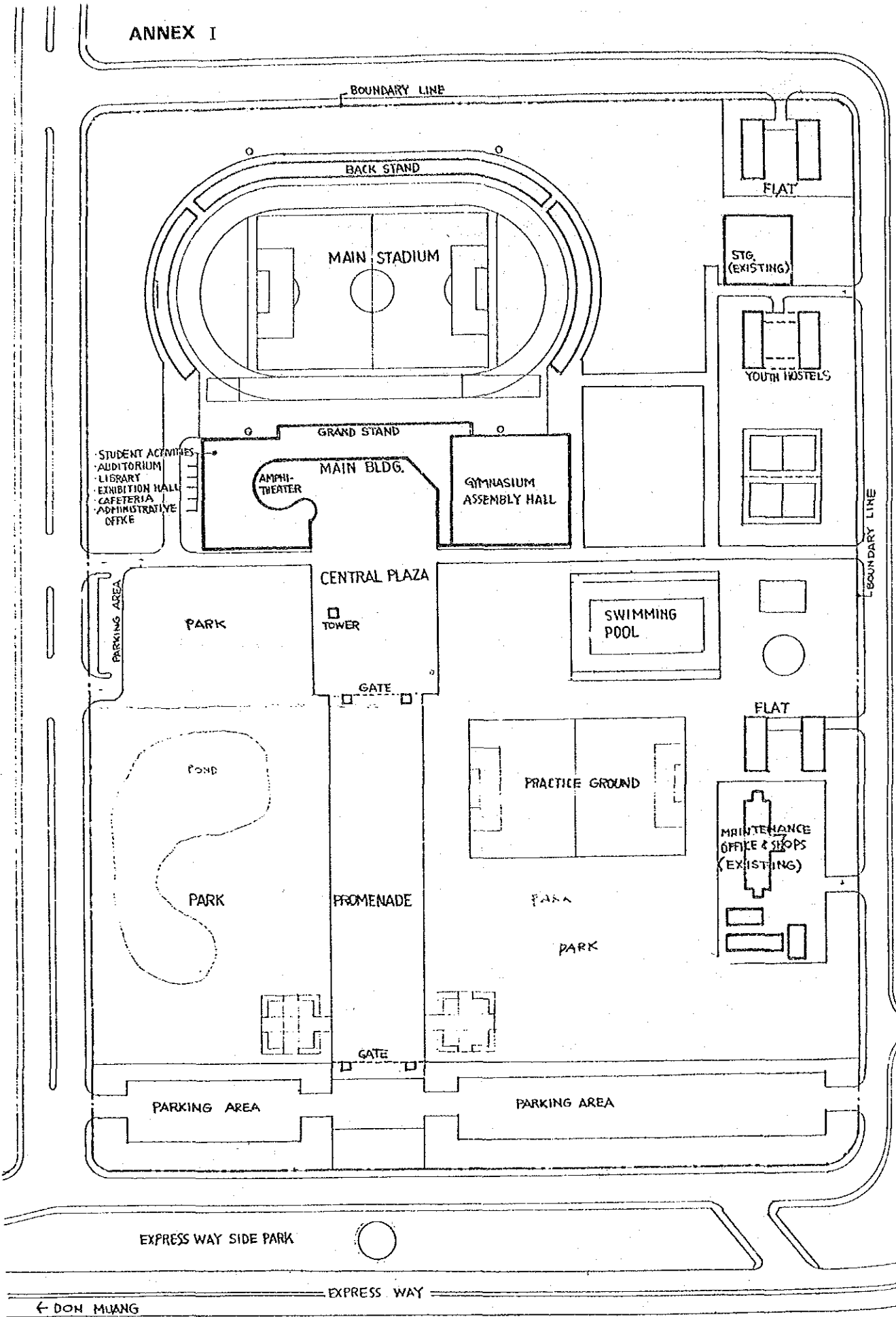


Mr. Thumrong Padhanarath
Under Secretary of State for
Bangkok Metropolitan Administration

MINUTES OF THE DISCUSSIONS
ON THE BASIC DESIGN SURVEY
FOR THE YOUTH WELFARE CENTER PROJECT

1. The proposed Center will be constructed at Din Daeng, Phaya Thai District, Bangkok.
2. The objectives of the Center are to provide:
 - (a) training and development in vocational skills as well as personality development of youth which are considered to be a prime resource in national development;
 - (b) youth with health, education and recreation services;
 - (c) youth with facilities, space, and equipment for sports and games which will contribute to their physical health, mental hygiene and sportsmanship;
 - (d) recreation areas and cultural opportunities for Bangkok people such that they will make the best use of their leisure for personal and social benefits.
3. The Center will consist of facilities as projected in Annex I.
4. The Government of Japan will provide such buildings of the Center as listed in Annex II, the layout plan of the Center is shown in Annex III.
5. The Government of Thailand will provide, among other things:
 - (a) data and information necessary for the construction.
 - (b) other items listed in Annex IV.

ANNEX I



← DON MUANG

EXPRESS WAY



ANNEX II

Facilities to be provided by the Government of Japan

1) Facilities in AREA-J (shown in ANNEX III)

a) Main Building

Gymnasium, Student Activities, Auditorium, Library,
Exhibition Hall, Cafeteria, Administrative Office and
Grand Stand

b) Main Stadium (Track and Field)

c) Back Stand

d) Swimming Pool

e) Central Plaza

f) Amphitheater

g) Gates

h) Parking Area in AREA-J

i) Service Access to above facilities

2) Furniture and Equipment

a) Sports Equipment

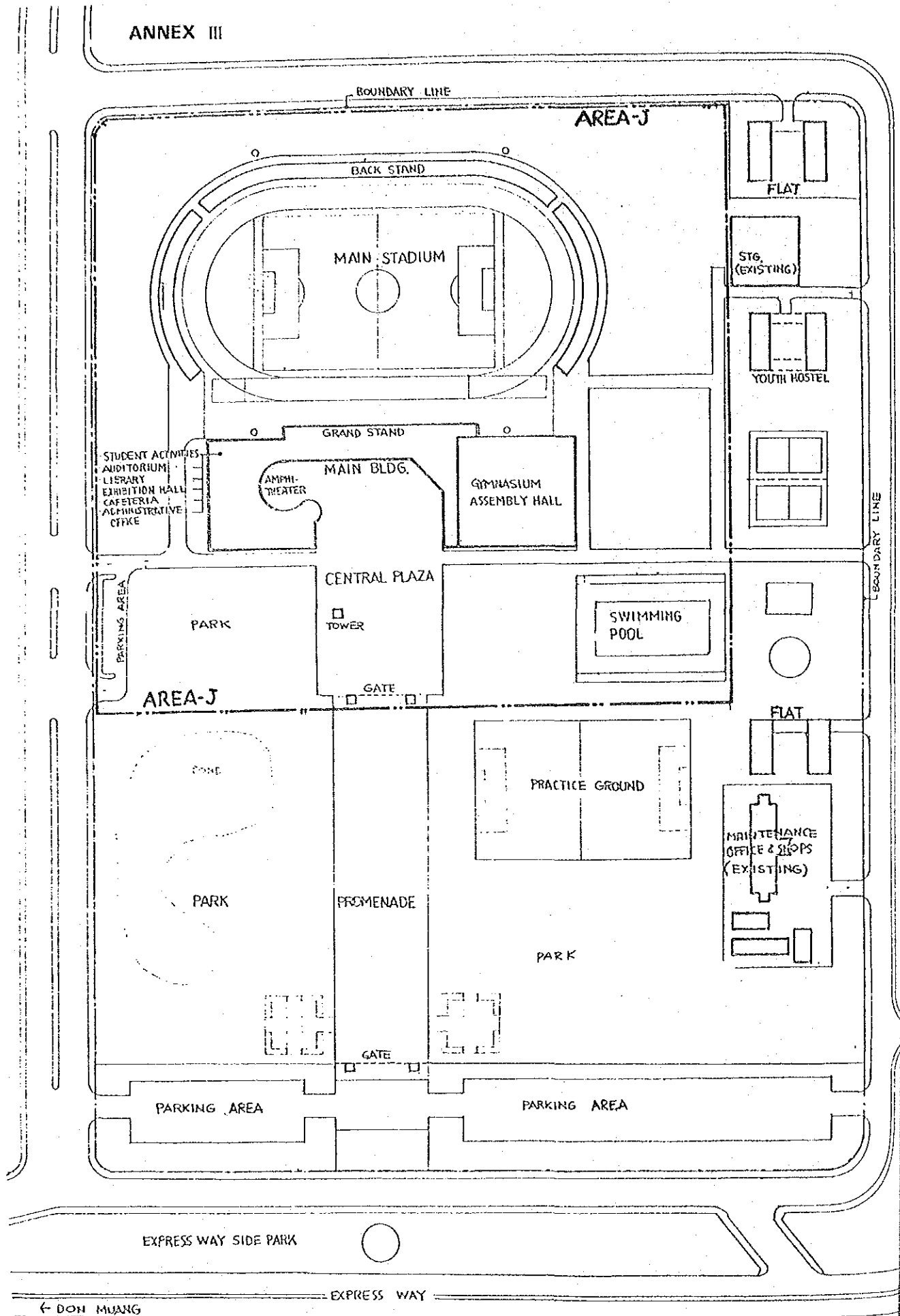
b) Book shelves for Library

c) Seats for Auditorium

d) Seats for Gymnasium

e) Seats for Grand Stand

ANNEX III



ANNEX IV

Items and necessary measures to be undertaken by the Government of Thailand

1) Fundamental Works:

- a) site preparation such as demolition of existing buildings, leveling and necessary clearing before the start of construction.
- b) provision of electrical main, water supply, drainage and telephone facilities necessary for the Center to the site.

2) Facilities

- a) flats (including furniture)
- b) Youth Hostels (including furniture)
- c) Parking Areas out of AREA-J
- d) Practice Ground and Other Sports Areas
- e) Promenade and Park
- f) Service Road out of AREA-J
- g) lawn, planting and fence

3) Furniture and Equipment

Office Furniture and miscellaneous for all facilities in the site.

- 4) Expenses necessary for inland transportation from the port of entry to the site of the equipment and other materials required for installation and use at the Center.

(2) RECORD OF THE DISCUSSIONS (AUGUST, 17, 1979)

RECORD OF THE DISCUSSIONS

ON THE DRAFT REPORT OF THE BASIC DESIGN

FOR THE CONSTRUCTION OF THE YOUTH WELFARE CENTER

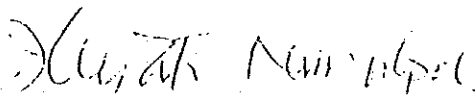
RECORD OF THE DISCUSSIONS
ON THE DRAFT REPORT OF THE BASIC DESIGN
FOR THE CONSTRUCTION OF THE YOUTH WELFARE CENTER

1. The Government of Japan has sent, through Japan International Cooperation Agency (JICA), the Basic Design Survey Team led by Mr. Toshitaka Aiga, from 13 August 1979, on the second visit to submit the draft report of the basic design for the construction of the Youth Welfare Center, which was prepared by JICA in accordance with the discussions between the Thai authorities concerned — Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC) and Bangkok Metropolitan Administration (BMA) — and the Basic Design Survey Team in June, 1979.

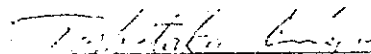
The Survey Team explained the report to the representatives of BMA and held a series of detailed discussions with the staffs concerned.

2. As a result, BMA and the Survey Team have confirmed the following items :
 - a) The master plan at Din Daeng, Phaya Thai District, Bangkok; Annex I.
 - b) The Government of Japan will provide such buildings of the Center as shown in Annex III.
 - c) The Government of Thailand will provide, among other things:
 - 1) Data and information necessary for the construction
 - 2) Other items listed in Annex IV.
 - d) The draft report with plans of the basic design proposed by the Survey Team was confirmed, leaving the possibility of minor modifications according to the progress of the detailed design.

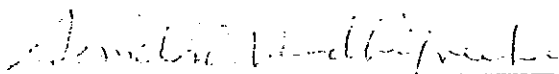
Bangkok, August 17, 1979



Mr. Xujati Pramoolpol
Director General
Department of Technical
and Economic Cooperation

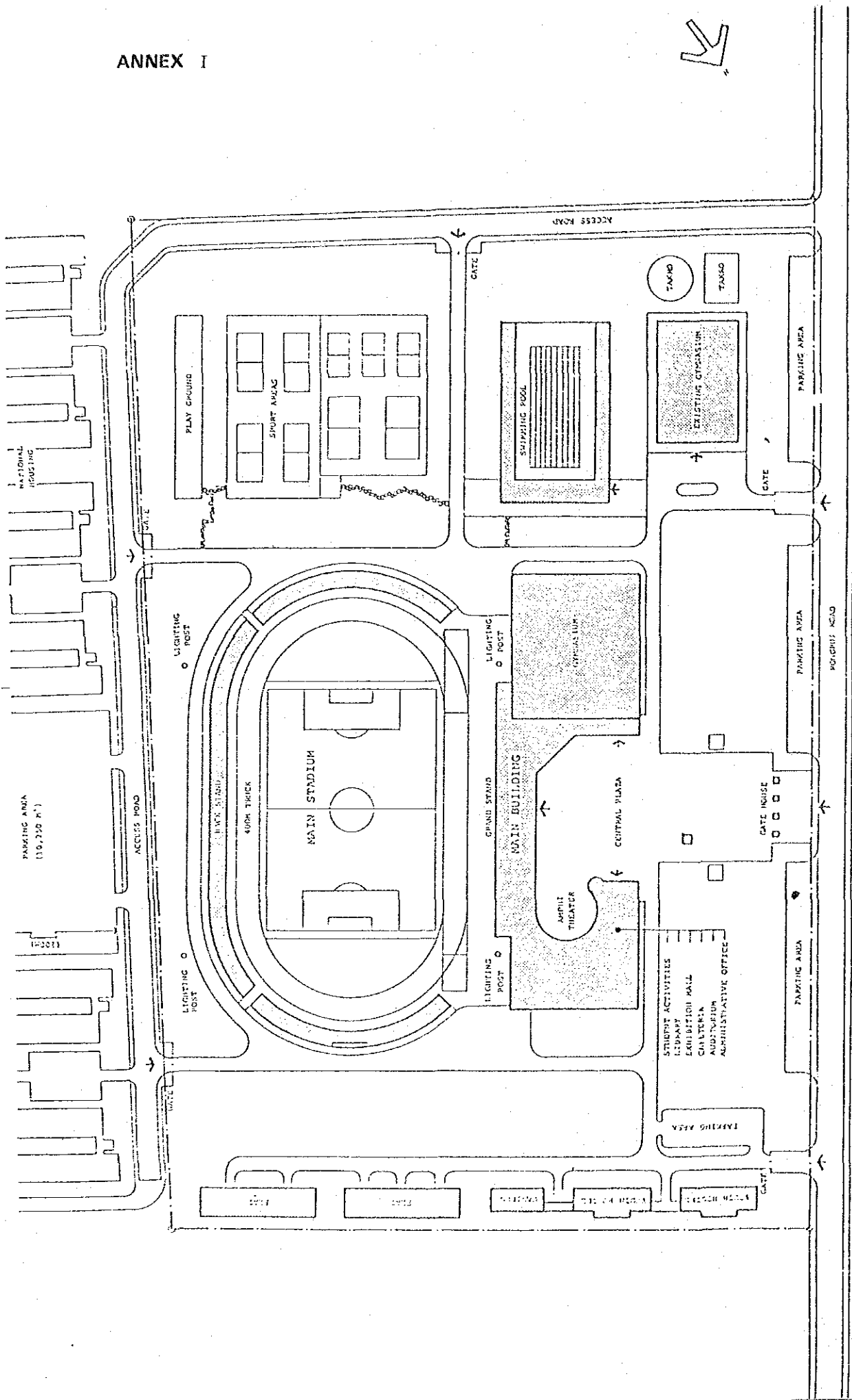


Mr. Toshitaka Aiga
Team Leader
Japanese Basic Design Survey Team



Mr. Somchai Wudhiprecha
Deputy Governor
Bangkok Metropolitan Administration

ANNEX I

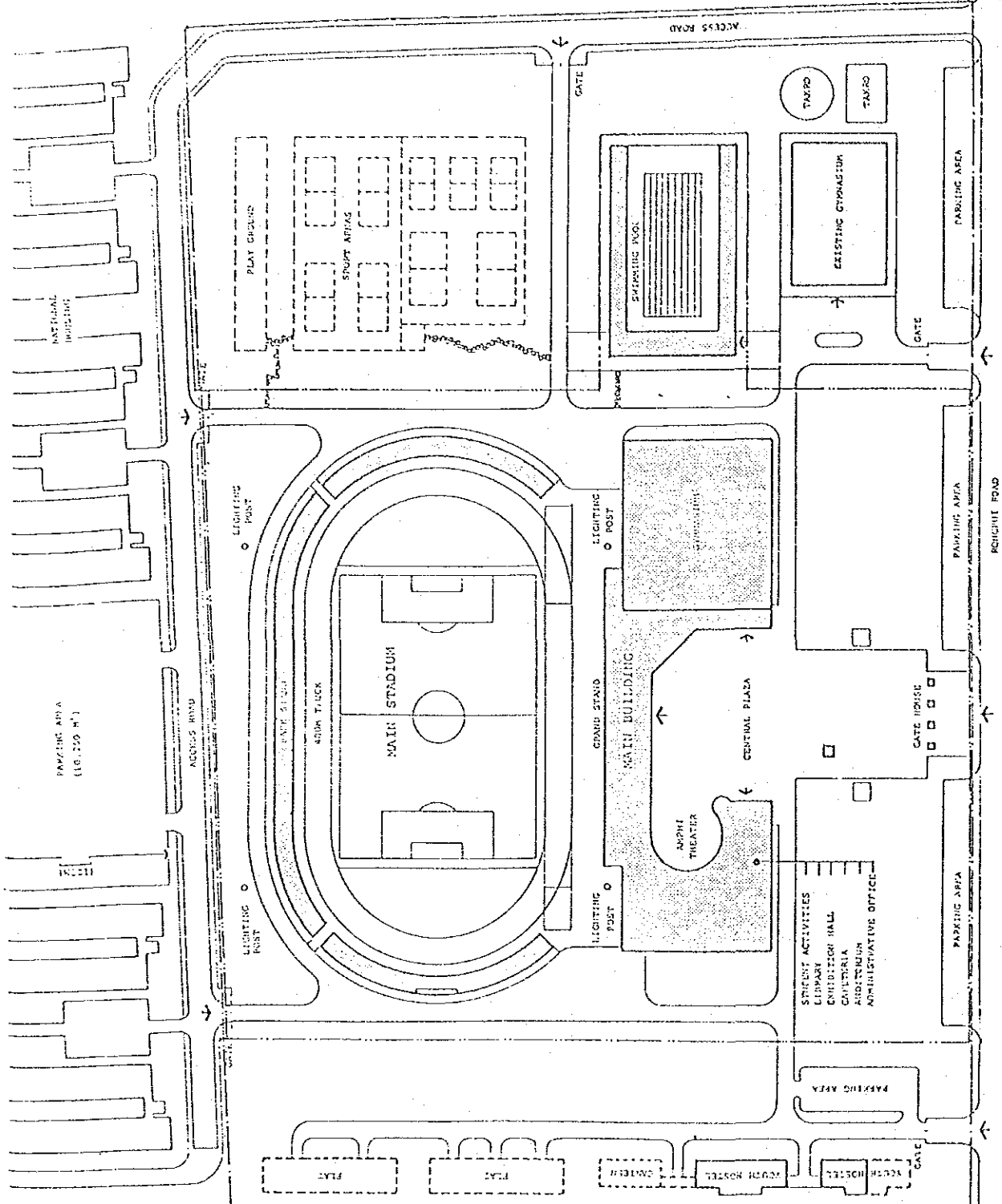


ANNEX II

Facilities to be provided by the Government of Japan

- 1) Facilities in AREA-J (shown in ANNEX III)
 - a) Main Building
Gymnasium, Student Activities, Auditorium, Library,
Exhibition Hall, Cafeteria, Administrative Office
and Grand Stand
 - b) Main Stadium (Track and Field)
 - c) Back Stand
 - d) Swimming Pool
 - e) Central Plaza
 - f) Amphitheater
 - g) Gates
 - h) Parking Area in AREA-J
 - i) Service Access to above facilities
- 2) Furniture and Equipment
 - a) Sports Equipment
 - b) Book shelves for Library
 - c) Seats for Auditorium
 - d) Seats for Gymnasium
 - e) Seats for Grand Stand

ANNEX III



FACILITIES TO BE PROVIDED BY JAPANESE SIDE
 FACILITIES TO BE PROVIDED BY THAI SIDE
 EXISTING FACILITIES



ANNEX IV

Items and necessary measures to be undertaken by the Government of Thailand

- 1) Fundamental Works:
 - a) site preparation such as demolition of existing facilities, leveling by pit sand and necessary clearing before the start of construction
 - b) provision of electrical main, water supply, drainage and telephone facilities necessary for the Center into the site
- 2) Facilities
 - a) flats (including furniture)
 - b) Youth Hostels (including furniture)
 - c) Parking Areas out of AREA-J
 - d) Sports Areas
 - e) Service Road out of AREA-J
 - f) Lawn, planting and fence
- 3) Furniture and Equipment

Office Furniture and miscellaneous for all facilities in the site
- 4) Expenses necessary for inland transportation from the port of entry to the site of the equipment and other materials required for installation and use at the Center.

D. タイ側提出文書

(1) Thumrong知事代行よりの文書 (JULY, 16, 1979)

H.E. Mr. Hiroshi Hitomi
Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary
The Embassy of Japan
1674 New Petchaburi Road
Bangkok




Excellency:

Reference to our letter dated July 16, 1979, The Bangkok Metropolitan Administration has sent the Embassy the plan of The Youth Welfare's Center at Din Daeng No.0713 without the signature of the Prime Minister, Gen. Kriangsak Chamanan.

So enclosed herewith, please find the final plan of No.0713 with the signature of the Prime Minister approved it and also 2 sets of blueprints of the site, the levelling and the drainage including city water and electricity.

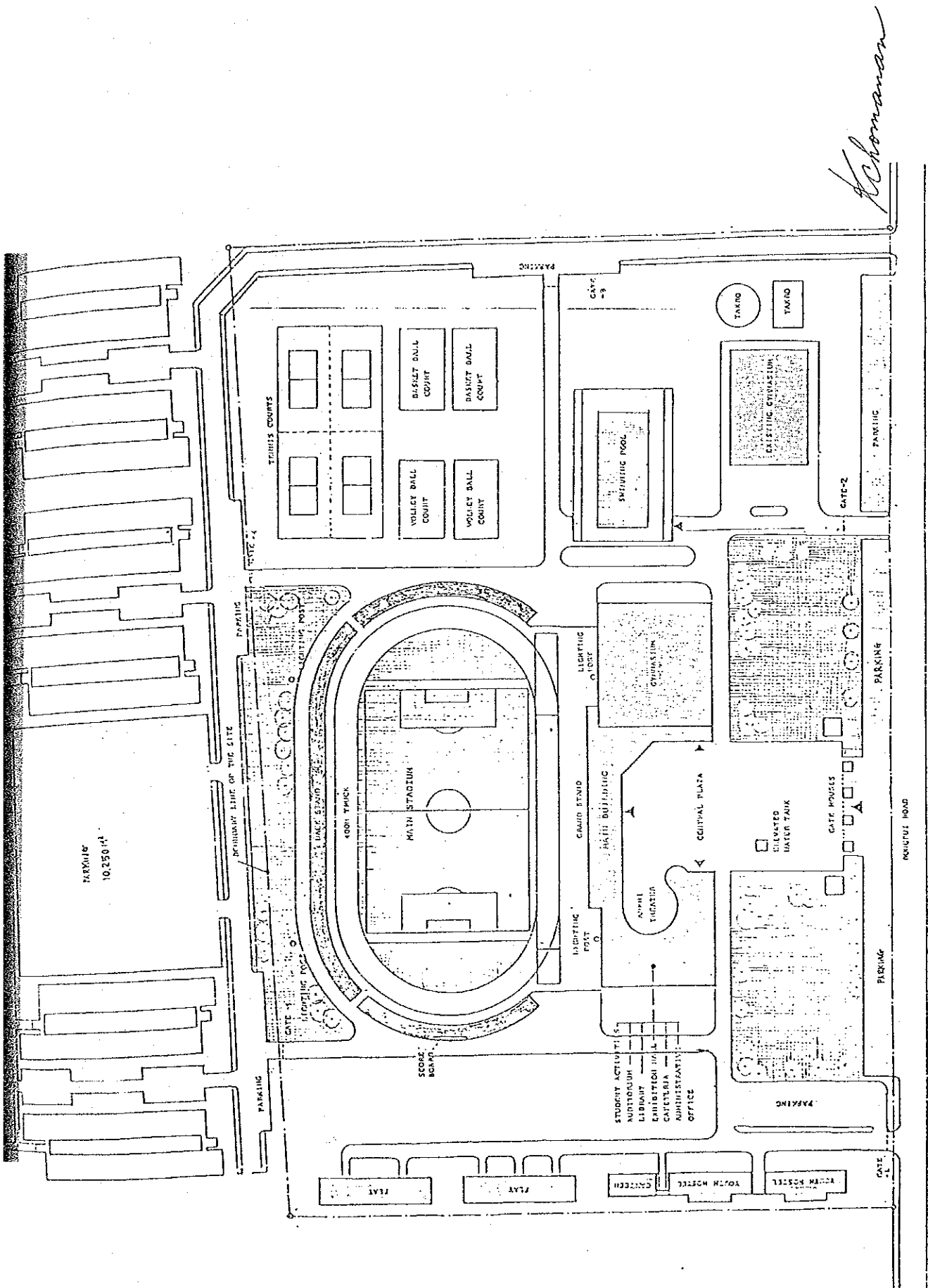
Please know that the plan No. 0704 which the Prime Minister has signed before that was cancelled as the Bangkok Metropolitan Administration has changed a few things in the plan and the plan No. 0713 is the final.

The Bangkok Metropolitan Administration avails itself of this opportunity to renew to the Embassy of Japan the assurances of its highest consideration.



Mr. Thumrong Padhanarath
Acting Governor
(Under Secretary of State for
Bangkok Metropolitan Administration)

Foreign Relations Section
Bangkok Metropolitan Administration
Din So Road
Bangkok 2
Tel. 2214847



K. Chomanan



SITE PLAN

(2) Thamrong知事代行よりの文書 (JULY, 20, 1979)

H. E. Mr. Hiroshi Hitomi
Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary
The Embassy of Japan.
1674 New Petchaburi Road
Bangkok.

Excellency:



Concerning the Youth Welfare's Center at Din Daeng, the Bangkok Metropolitan Administration would like to inform you that we have received the plan No.0704 and have already approved it which the Prime Minister, Colonel Kriangsak Chomanand has as well approved.

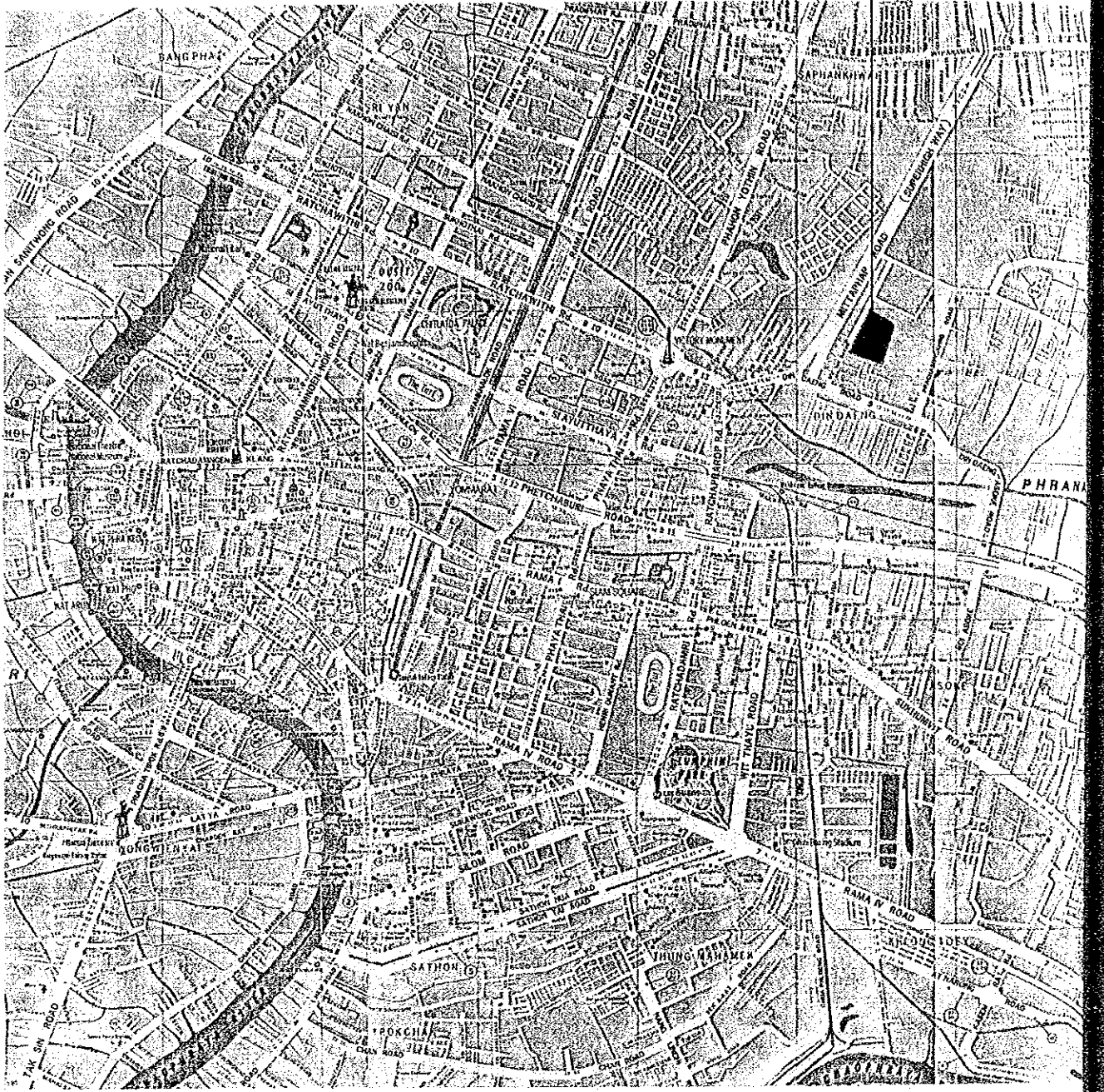
In order to fulfil completely the Prime Minister's idea in having the plenty of room for parking, the Bangkok Metropolitan Administration then asked the Housing Authority of Thailand to contribute to the Bangkok Metropolitan Administration the land of 10,250 M² behind the site for making the ample parking for the Center which the Housing Authority of Thailand has kindly contributed to us for this purpose. So, this Center can move a little bit backward and will have some space at the front for making the parking too as it was shown in the attached plan No.0713 which The Prime Minister and the Bangkok Metropolitan Administration agreed with this plan and will use it as the final-complete plan for building the Center.

The Bangkok Metropolitan Administration avails itself of this opportunity to renew to the Embassy of Japan the assurances of its highest consideration.

Mr. Thumrong Padhanarath
Acting Governor
Under Secretary of State for
Bangkok Metropolitan Administration

Foreign Relations Section
Bangkok Metropolitan Administration
Din So Road
Bangkok 2
Tel. 2214847

THE CONSTRUCTION SITE
FOR THE YOUTH WELFARE CENTER



LOCATION OF THE SITE

第6章 建設基盤条件調査

6-1 敷地調査

A. 敷地の概況

本計画敷地は、南北約420m、東西約280mの長方形をした平坦な土地であり、約12.0haの広さを有している。

現在、敷地内には、図に示されている様に簡易なスポーツ施設があり、それらの内、南西部分にある体育館及び北西部分にあるユースホステルは現在使用中であり、残置することとして計画した。現在、敷地地盤の表土には、有機質土がかなり含まれているが、メインスタジアムを計画するに当り、公式競技場としての機能を維持するため、その表土をそっくり山砂等に入れ替、余盛する必要がある。又、雨期において、冠水する部分があり、本センターの建設にあたっては、下水整備、盛土等の措置が必要である。

B. 敷地の周辺

敷地西側に面して、高速道路から分岐した本センターへの導入路、Rong Pui 道路が接しており、周辺には、住宅公団の集合住宅群が現存、並びに建設中であり、労働省職業訓練局(N I S D)庁舎他、学校、工場、事務所等が隣在している。

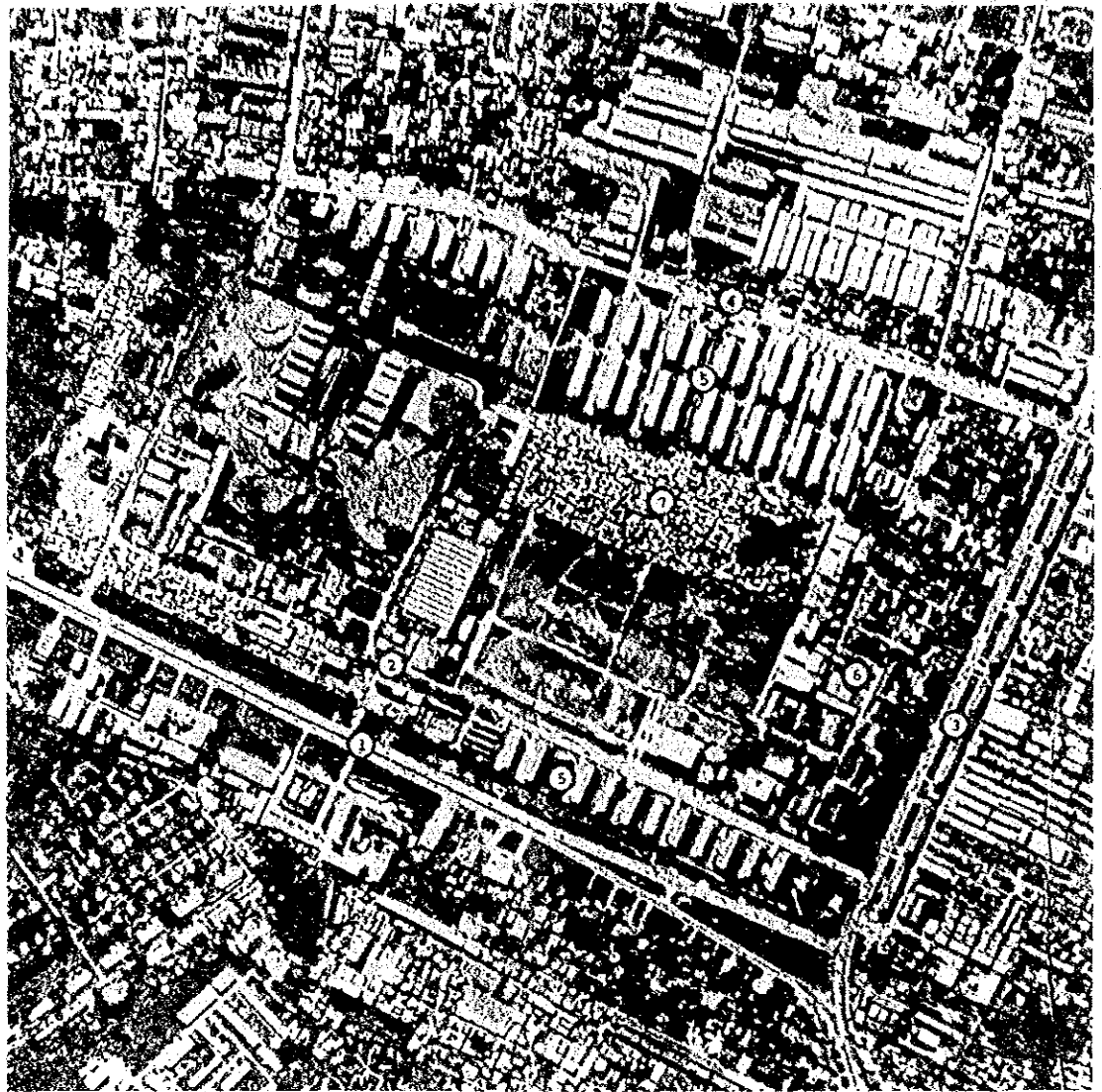
C. 敷地周辺の供給処理施設

1) 敷地西側の Rong Pui 道路から集合住宅群への連絡導入路が、本計画敷地に沿って、東側及び南側に計画されている。

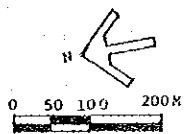
2) 市上水道配管は、敷地東方約400mの位置、及び前述高速道路沿いに敷設されている。

3) 市下水道は、Rong Pui 道路の両側沿いに計画・施行中で、敷地に接する部分については、配管はされているものの、その延長先が未接続のため、現在は使用不能である。

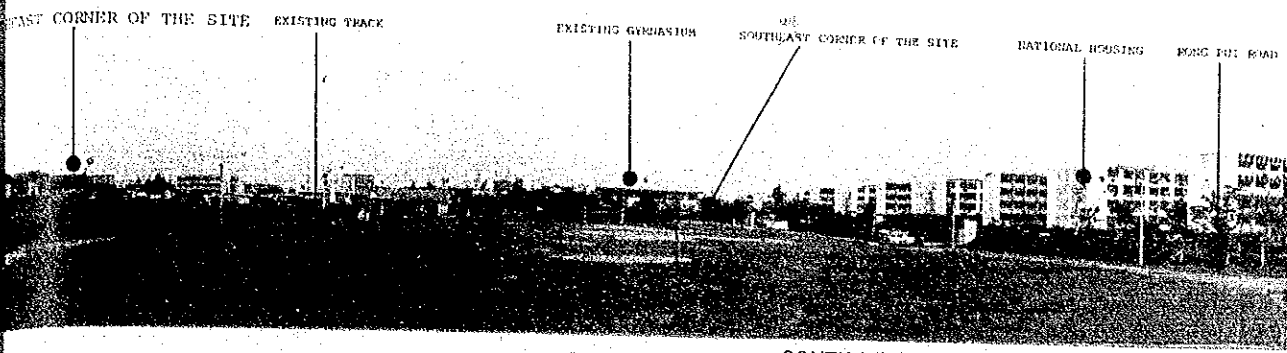
4) 電力供給は、現在 Rong Pui 道路に沿って高圧 3 相12KV 容量で敷設されており、本センター施設への供給は可能である。



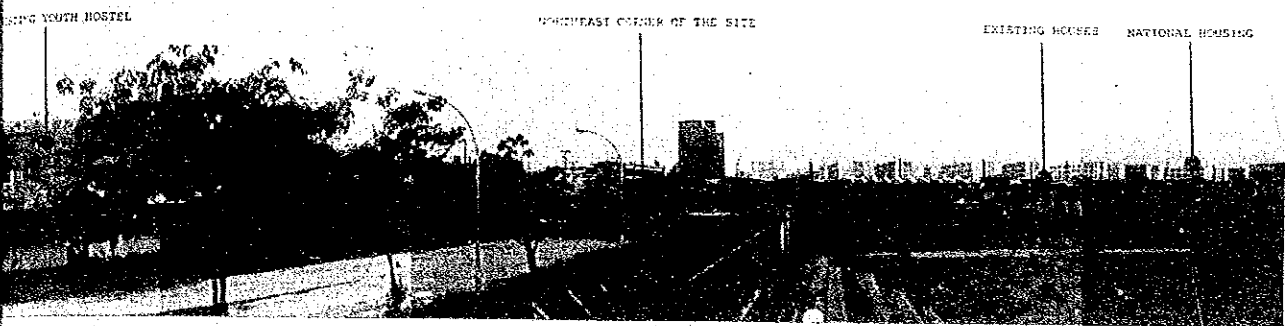
- 1 MITTAPHAP ROAD (SUPER HIGH WAY)
- 2 RONG PUI ROAD
- 3 DIN DAENG ROAD
- 4 PRACHASONG KHRO ROAD
- 5 NATIONAL HOUSING
- 6 N.I.S.D.
- 7 EXISTING HOUSES



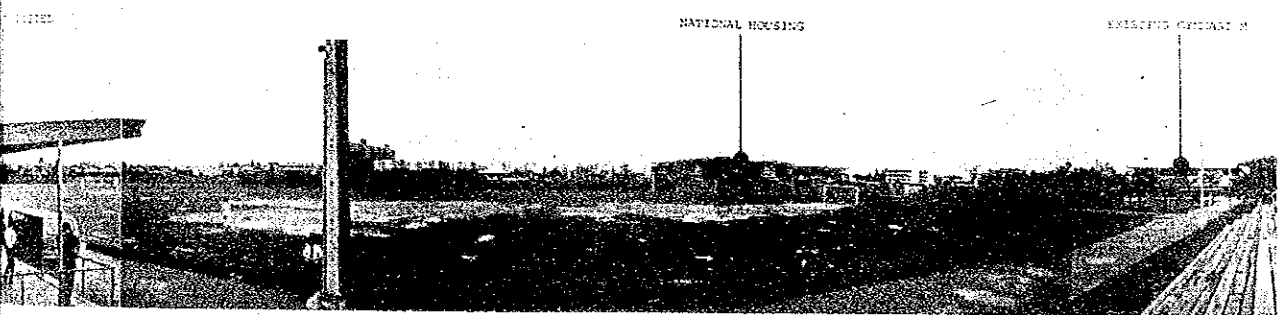
SURROUNDING OF THE SITE



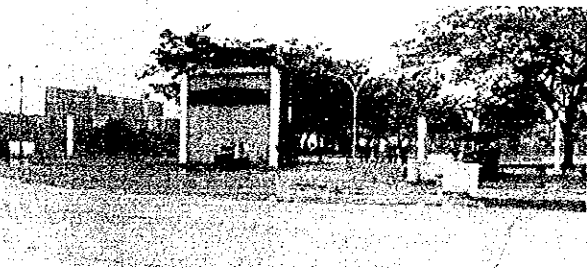
SOUTH VIEW FROM THE NORTH SIDE OF THE SITE



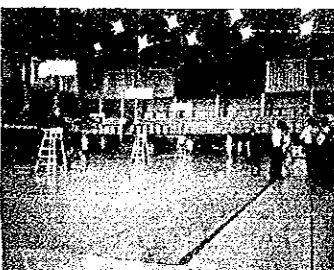
EAST VIEW FROM THE NORTH SIDE OF THE SITE



EAST VIEW FROM WEST SIDE OF THE SITE



THE SOUTHWEST GATE

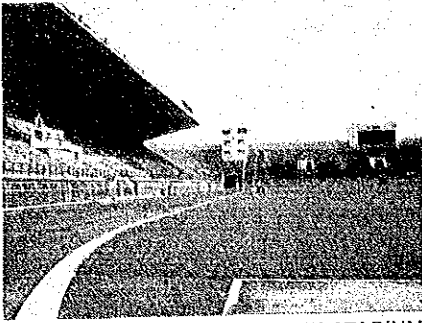


EXISTING GYMNASIUM

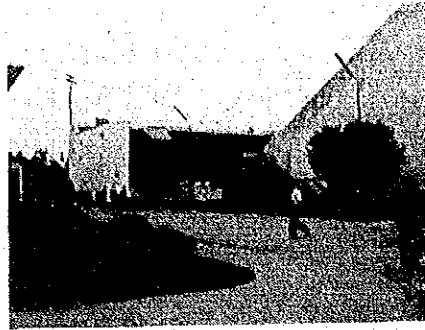


EXISTING YOUTH HOSTEL

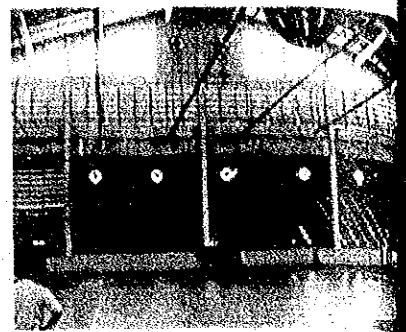
NATIONAL STADIUM



MAIN STADIUM

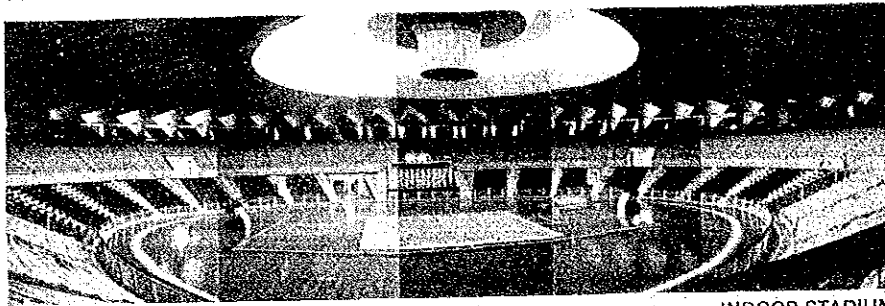


SWIMMING POOL

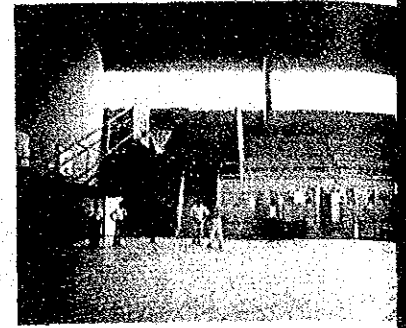


GYMNASIUM

NATIONAL SPORTS COMPLEX



INDOOR STADIUM

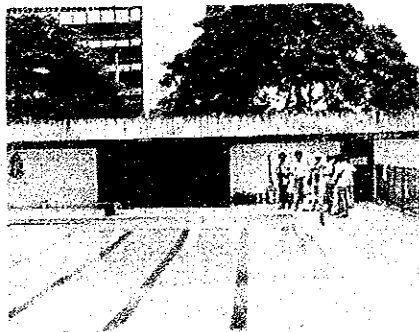


TRAINING CENTER

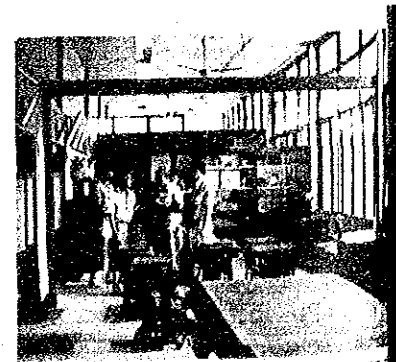
LUMPINI YOUTH CENTER



ENTRANCE



SWIMMING POOL



MULTIPURPOSE

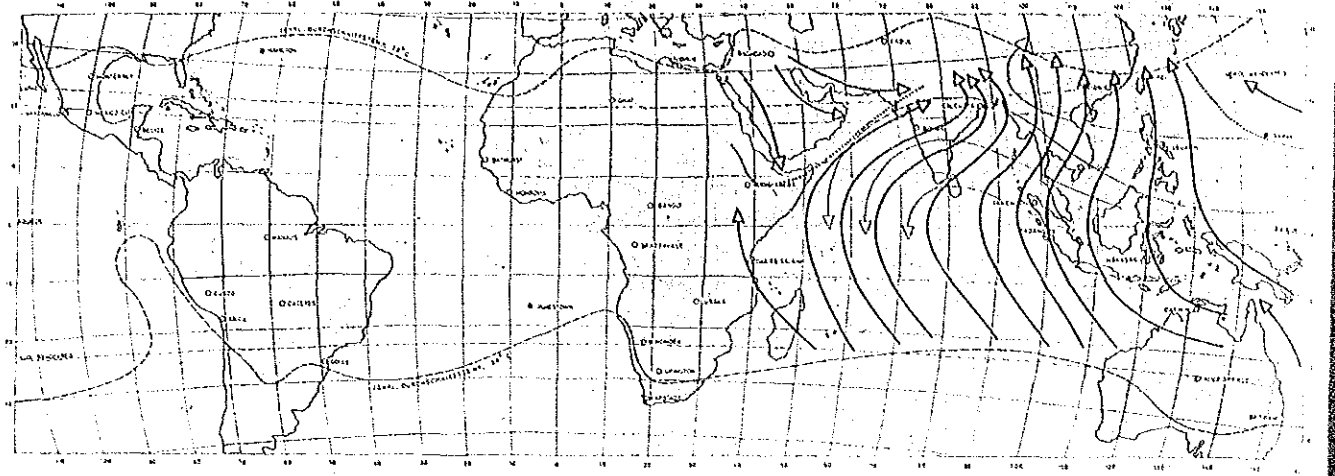
6-2 関連施設調査

現在 Bangkok 市及びその周辺における主な文化施設、運動施設としては下記のようなものが挙げられる。

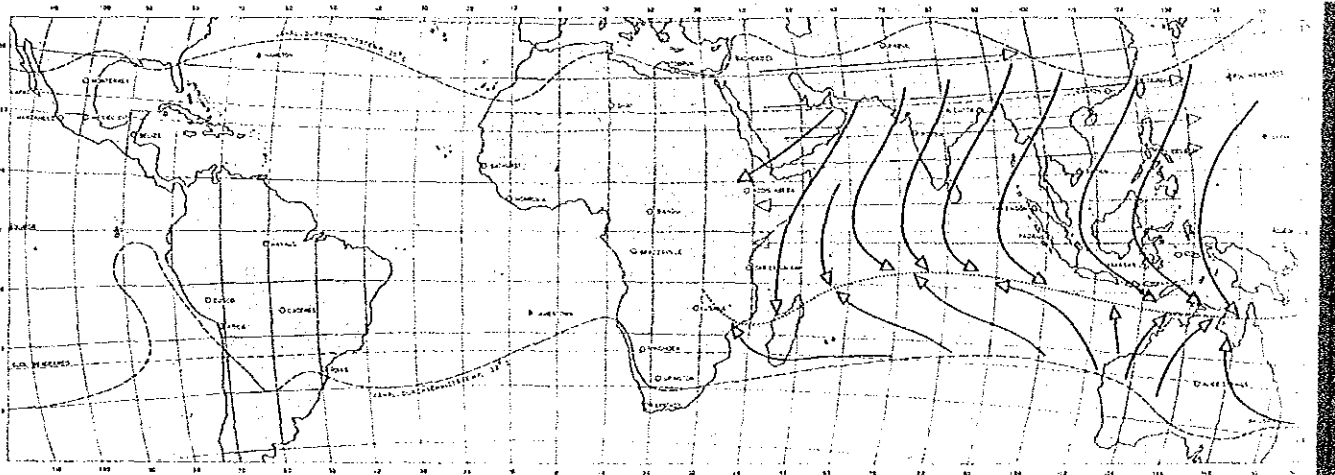
- 1) 文化施設…………National Theater
National Museum
National Library
- 2) 運動施設…………National Stadium
National Sports Complex
Rajdamnden Boxing Stadium
Lumpini Boxing Stadium
Charusathien Stadium
Royal Turf Club
Royal Bangkok Sports Club

その他にも、民間の集会場、体育クラブ等は存在するが、それらの多くは、富裕層を対象としたものであり、一般市民が利用できるものは極めて不足しているのが現状である。

又、青少年を対象としたものとしては、Bangkok 市が管理、国営している施設が、市内に22ヶ所ある。(参考資料-P112) しかし、それらは寺院の空地を利用しているものがほとんどで、施設としての内容は乏しいものである。唯一、小規模ではあるが、施設の整ったものとしては、Lumpini 公園にある Lumpini Youth Center があるのみである。



MONSOON WINDS (SUMMER)



MONSOON WINDS (WINTER)

- ▶ Direction of winds near sea level
- ▶ Direction of winds at approx. 20,000 ft.
- Inter-tropical front